

大阪府教育委員会文化財調査事務所年報

11

2007年11月

大阪府教育委員会

はじめに

平成9年4月に開設した文化財調査事務所は、平成18年度末をもって最初の10年を積み重ねました。この間、私たちを取り巻く社会環境は、規制緩和や国から地方公共団体への権限委譲など、加速度を増して変化しています。文化財保護行政も発掘調査の積算標準、埋蔵文化財調査の標準や出土品の取り扱いなどについて、わかりやすい基準を作成し、実施に努めてきました。

また文化財調査事務所では、過去10年間に延べ721件の発掘調査を実施しました。このうち継続的に実施している郡屋北遺跡の発掘調査では、百濟系渡来人が深く関わった古墳時代の「牧」様子が明らかとなっています。また、加納・平石古墳群の発掘調査では、古代の人びとが描いた終末期古墳の壮大な設計を知ることができました。日々の地道な発掘調査の実施により、このような調査の成果が積み重ねられて来ています。

今年度、文化財調査事務所は、次の10年へ向けての新たな一步を踏み出します。これまで以上に文化財の保存と活用に努めて参りますので、なお一層のご協力とご支援を賜りますようお願いいたします。

平成19年11月

大阪府教育委員会事務局
文化財保護課長 富尾昌秀

例　　言

1. 本書は、大阪府教育委員会文化財調査事務所年報第11冊である。
2. 本書には、本府教育委員会が実施した平成18年度の発掘調査及び普及啓発活動等の記録を記載している。
3. 埋蔵文化財調査の中の主要なものについては、その概要報告を掲載した。各概要報告の表題に示す数字列及び番号は以下の内容を示している。
なお、概要報告表題の調査番号は第3・4表の調査番号と一致する。

追跡名（平成18年度調査番号）

 - (1) 所在地
 - (2) 調査の原因となった事業
 - (3) 調査担当者
4. 各項の執筆分担は次のとおりである。

「平成18年度における埋蔵文化財調査の概況」	調査管理グループ 玉井 功
「主要発掘調査の概要報告」	調査第一・二グループ
「資料紹介」	調査第一グループ
「平成18年度普及啓発・広報事業及び資料」	調査管理グループ
「平成18年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行物一覧」	調査管理グループ
「平成18年度資料の貸出・掲載・閲覧事業一覧」	調査管理グループ
「平成18年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図」	調査管理グループ
5. 本書の編集は、調査管理グループが行った。
6. 本書は500部作成し、一部あたりの単価は365円である。

目 次

はじめに

例 言

日 次

挿図目次

表 目 次

グ ラ フ

平成18年度における埋蔵文化財調査の概況 1

【主要発掘調査の概要報告】

藤屋北遺跡	(06002・06038).....	6
招提中町遺跡	(05007・06003).....	8
高木遺跡	(06004).....	9
大和川今池遺跡	(06007).....	10
林遺跡・国府遺跡	(06009).....	11
桜井駅跡	(05025・06010).....	12
堀遺跡	(06013).....	13
平石遺跡	(06014).....	14
安松山遺跡	(06016).....	15
府中遺跡	(06017).....	16
田尻遺跡	(06023).....	17
鶴川・ミクリ遺跡	(06024).....	18
人町遺跡	(06031).....	19
旧府庁跡	(06037).....	21
府道春木岸和田線試掘	(06039).....	22
山城庵寺	(06049).....	23
陵西遺跡	(06052).....	24
和泉寺跡	(06057).....	25
島泉南遺跡	(06058).....	26
千里丘遺跡群	(06061).....	27

【資料紹介】

高槻住宅（北園遺跡）・高槻市芝生住宅試掘調査	28
旧府庁跡出土の刻印資料	30
平成18年度普及啓発・広報事業及び資料	32
平成18年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行物一覧	34
平成18年度資料貢出・掲載・閲覧事業一覧	35
平成18年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図	43

捕 図 目 次

第1図 調査位置図	5	第37図 調査地位置図	22
第2図 F調査区全景（北から）	6	第38図 調査区配置図	22
第3図 漆塗木製鞍出土状況	6	第39図 断面模式図	22
第4図 部屋北遺跡F調査区全体図	7	第40図 遺跡位置図	23
第5図 住居1（西より）	8	第41図 調査地点位置図	23
第6図 住居2（北より）	8	第42図 山城新池北堤	23
第7図 建物2（西より）	8	第43図 調査区位置図	24
第8図 調査区位置図（S=1/7,500）	9	第44図 調査状況（東から）	24
第9図 3トレンチ（西から）	9	第45図 平面図・断面図	24
第10図 人和川今池遺跡調査区位置図	10	第46図 調査地位置図	25
第11図 大和川今池遺跡 3・4区全景	10	第47図 出土遺物実測図	25
第12図 調査地点位置図	11	第48図 調査区位置図	26
第13図 墓輪を敷いた埋葬施設	11	第49図 S D01土器出土状況	26
第14図 調査地点の地形断面図	11	第50図 遺構図	26
第15図 桜井駅跡調査区と周辺の遺跡	12	第51図 調査区位置図	27
第16図 調査区位置図（S=1/15,000）	13	第52図 中世遺構平面図	27
第17図 B区（北半部）第8面（東から）	13	第53図 調査区全景	27
第18図 調査区配図	14	第54図 高槻住宅（北園遺跡）試掘調査位置図	
第19図 平石谷遺跡分布図	14		28
第20図 調査地位置図	15	第55図 高槻芝生住宅試掘調査区位置図	28
第21図 調査区配図	15	第56図 高槻住宅（現・北園遺跡）試掘調査区上層断面図	29
第22図 3区遺構平面図	15	第57図 1～6高槻住宅（現・北園遺跡）試掘出土遺物 7高槻芝生住宅試掘出土遺物	29
第23図 炭集積1検出状況	16		29
第24図 純文土器出土状況	16	第58図 高槻芝生住宅試掘土層断面図	29
第25図 調査地点位置図（S=1/40,000）	17	第59図 高槻住宅（北園遺跡）試掘調査A7トレンチ	29
第26図 土層図	17		29
第27図 調査区位置図	18	第60図 高槻芝生住宅試掘トレンチA5トレンチ	29
第28図 基本層序模式図	18	第61図 「授産所」刻印煉瓦	30
第29図 2区遺構図	19	第62図 煉瓦刻印拓本	31
第30図 木組井戸47（南西から）	20	第63図 刻印写真	31
第31図 石組井戸48（南から）	20	第64図 部屋北遺跡現地説明会	32
第32図 石組井戸48側面（南西から）	20	第65図 出土品に登場する生き物 動物編	33
第33図 木組井戸47側面図	20	第66図 上器・どき・ドキ展	34
第34図 石組井戸48平面図・断面図	20		
第35図 旧府庁（増築後）平面図・検出遺構位置	21		
第36図 A区建物基礎煉瓦壁体（南から）	21		

表 目 次

第1表 原因別調査種別表	1	第4表 平成18年度調査箇所一覧表（2）	4
第2表 地域別調査面積・件数一覧表	1	第5表 大阪府救済事業史「授産所」関係年表	30
第3表 平成18年度調査箇所一覧表（1）	3	第6表 大阪府救済事業史各設置場所での変遷	30

グ ラ フ

グラフ1 原因別調査面積の推移	2
グラフ2 地域別調査面積の推移	2

た、年度により調査件数や要調査面積が大きく増減するものもある。毎年、調査件数や面積が一定していることが望ましい。調査技術の定数が大幅に減少しているので、今後調査を効率よくスムーズに実施していくために、関係者との調整をより厳格にしていく必要がある。

主な調査

調査結果については各報告をお読みいただければ幸です。ここでは特質すべきものだけを記述しておきたい。

郡屋北遺跡の調査は収束に向かっているが、今回の調査でも古墳時代の遺構がたくさん検出されている。F地区の古墳時代中期大溝からは韓式系土器、陶質土器をはじめ鉄器、木製農具、石製品が出土しているが、なかでも塗り木製軸は丁寧な造りで軸の制作方法を復元するためにも、また、この地の河内馬鹿い集団の解明のためにも重要な遺物となる。

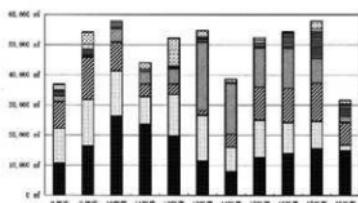
林遺跡では5世紀の埴輪を使用した7世紀の埋葬施設が検出されたほか、高塚古墳の西端の基底部がみつかった。かつて道路建設で削平され実態が不明であった高塚古墳の一端が明らかになる可能性がある。

これまで遺跡外での全貌が不明であった桜井駅跡の調査が実施された。縄文時代から弥生時代中期、古墳時代前期の遺物や遺構が検出されている。中世では屋敷跡が見つかっている。

府中遺跡では縄文時代中期末の土器が多く出土し、泉地域の縄文時代の様相を解明するのに必要な資料である。

大阪市西区江之子島の調査では明治から大正にかけて、大阪府庁や大阪府工業奨励館として活用された建物跡が調査された。明治時代のレンガ基礎や大正時代の地下室などが検出された。基礎部分ではあるが、数少ない近代建築の調査として重要である。

グラフ1 原因別調査面積の推移



島泉州南遺跡では幅1m全長10m以上の古墳時代中期の溝が検出され、狭い範囲に完形の土器が集中して集積していた。古市古墳群と百舌鳥古墳群の中間地点でこのような遺構が見つかった意義は大きい。

普及広報等について

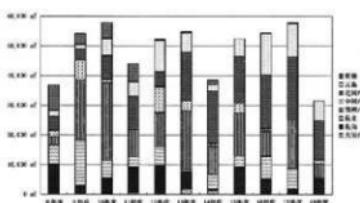
調査事務所で発掘調査・遺物整理報告書作成とともに大きな柱となるのが普及広報等である。そのうち資料展示は泉北考古資料館や府庁別館のロビー展示など限られた場所での展示となっている。それでも、泉北考古資料館では常設展以外に、速報展1回、企画展示2回、優品展5回の合計8回の展示を行った。府庁別館ロビー展示は1階と8階に展示ケースを設置しているが、それぞれ一階では2回と8階では3回の展示替えをおこなった。

大阪府内市町専門職員や一般の方にも開放している大阪府埋蔵文化財研究会は(財)大阪府文化財センターと共に定期的に調査事務所講義室を使用して2回実施した。また、職員によるスライド検討会は年に10回実施している。発掘調査における現地説明会は3回実施し、延べ1,280名の参加者を得た。博物館実習は立命館大学の学生を受け入れて5日間おこなったほか、他施設の実習生を一日受け入れての講義も実施した。

出土遺物の長期貸し出しは国立歴史民俗博物館や九州国立博物館を含め20施設に及ぶ。短期貸し出しは大阪府立弥生文化博物館や近つ飛鳥博物館、狭山池博物館の3館は勿論のこと滋賀県立安土城博物館など大阪府内外の博物館等に貸し出しをおこなった。出版物への写真掲載等では全国に向けた雑誌や新聞、専門書をはじめ、地域広報誌など幅広いメディアからの申し込みがあり、総数60件に及んだ。大阪府の調査が注目されている証でもあり、誇れる文化財を数多く保有している証拠でもある。

資料閲覧は80件に上った。閲覧者は海外からも

グラフ2 地域別調査面積の推移





第1図 調査位置図

しどみや・きた 蔀屋北遺跡（F調査区）（06002・06038）

- (1) 四條畷市蔀屋・砂
- (2) なわて水みらいセンター建設
- (3) 岡田 賢

はじめに

なわて水みらいセンター建設に伴う蔀屋北遺跡の調査は、水処理施設（A・B・C調査区）、ポンプ棟・沈砂地棟（D調査区）、急速ろ過池（E調査区）の建設予定地が、平成13年度から順次行われ、弥生時代から近世にかけての複合遺跡であることが判明している。特に古墳時代中・後期の遺構面は「河内の馬廻」との関連を想定させる遺構、遺物（馬埋納土坑、馬骨、木製輪鉢など）を中心に、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、井戸、土坑、溝などが谷状の地形を挟んで複数の遺構群を形成しており、これによって当該期の集落跡の構成要素や時期的な変遷が明らかになりつつある。

F調査区は、管理・送風機棟建設に伴うもので、D調査区とE調査区の中間、またB調査区とC調査区の西側にある。調査は平成17年9月に開始し、平成18年9月まで行われた。便宜的に調査区北半部分をF-1区、南半部分をF-2調査区、D調査区との接觸部分をF-3区として行った。平成18年度中は古墳時代の遺構面を調査し、古墳時代中期および後期の遺構面を確認した。

F調査区古墳時代遺構面の調査成果

第13遺構面は古墳時代中・後期の遺構面である（第4図）。調査区を南北東-北西方向の対角線上に微高地があり、竪穴住居跡や掘立柱建物跡などが多数検出された。その西側は大きく落ち込む谷地形となり、中期には南北東-北西方向に直線的に伸びる溝（大溝）が開削されていた。これはE調査区で検出され

た「大溝」の延長部分で、北西に真直ぐのび、試掘H地区でもその一部が検出されている。

後期には大溝は埋没し、微高地とは比高差1~1.5mの浅い谷地形になる（谷1）。後期の間に徐々に谷1は埋没し7~8世紀には完全に埋没すると共に集落自体も廃絶する。

一方北側にはD調査区から続く浅い谷地形が中期～後期にかけて存在するが（谷2）、中期段階では平坦地で井戸や土坑が検出されたのに対し、後期には小規模ながら水田畦畔が検出された。集落間の狭小な低地で水田經營を行っていたことが明らかになつた。

中期に属する主要遺構としては、竪穴住居跡10棟、掘立柱建物3棟以上、井戸5基などがある。竪穴住居跡は平面形が一辺4m前後の隅丸方形で、東壁や北壁などに造り付け窓をもつ。主軸は東ないしは北にとるものが多い。掘立柱建物跡は今後ピットの再検討で増える可能性が高いが竪穴住居跡とはやや軸の向きが異なるようである。本調査区の井戸からは、船材転用枠は検出されていない。この他、鳥足紋を施した陶質土器が検出された土坑などがある。これら中周の遺構群は概ね中期前半頃（TK216型式期）から小数の竪穴住居跡などがみられるが、数的には多くなるのは中期後半～末（TK23～47型式期）であり、他の調査区と同様の傾向を示す。

後期に属する主要遺構としては、竪穴住居跡8等以上、掘立柱建物跡5棟以上、井戸1基などを検出している。竪穴住居跡は一辺が7m前後と中期に比



第2図 F調査区全景（北から）



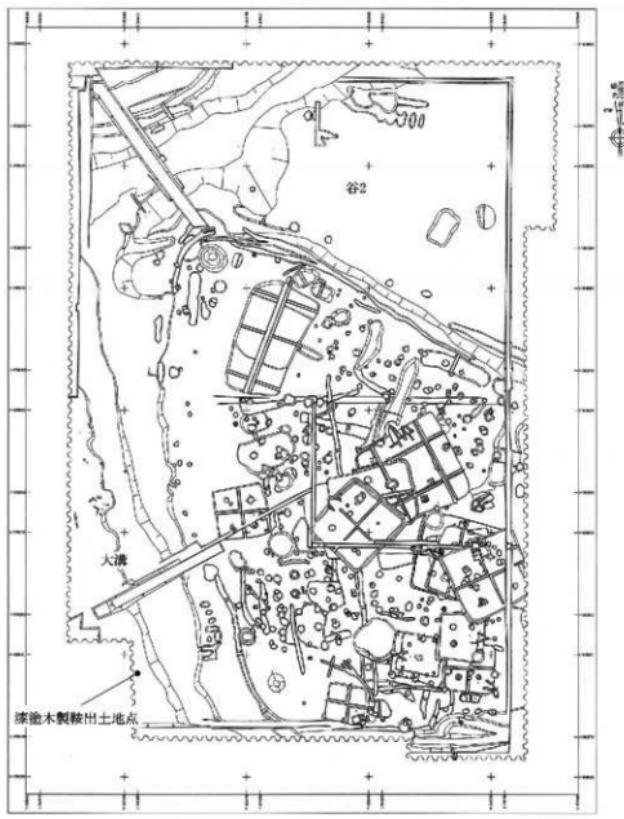
第3図 漆塗木製鞍出土状況

べて大きくなり、軸をやや西に振っている。竪穴住居跡のほとんどは後期中葉～後半ないしは末頃（TK10～TK43型式期）に属し、掘立柱建物跡や井戸、先述した水田畦畔の所属時期についても同様である。F調査区は、D調査区と同様に、後期段階でも竪穴住居跡が主体の集落構成である点で、A～C調査区やE調査区とは集落の様相が異なっているとみられる。

集落域の西側には中期段階に大溝が開削されており、須恵器、土師器のほか韓式系土器や陶質土器などの土器類をはじめ、刀子などの鉄器、農工具などの木製品、玉類、石製品、鹿角製品など多種多様な遺物が出土している。中でも大溝中層（TK208型式期）から出土した漆塗木製軸は、過去出土している

輪轂、鍛轂とあわせ、主要な馬具が集落遺跡から出土した稀有な例として特筆すべきものである（第3図）。軸は後輪で幅約47cm、高さ約24cmで、外面は金属製軸の機金具を模倣しており精巧な作りである。内側は突帯を削り出している。このタイプは近畿地方では類例が数例あり、居木の取付方法を復元する上で重要な例となろう。

平成13年度から行われてきた蔀屋北遺跡の調査は、F調査区をもって、今後予定されている小規模な調査をのぞいて主要な調査は終了したことになる。馬飼集団の集落の様相、朝鮮半島との関係などの本遺跡に関わる各要素は、新たな知見を加えながら明らかにされていくことになる。



第4図 蔽屋北遺跡F調査区全体図

しょだいなかまち 招提中町遺跡 (05007・06003)

- (1) 枚方市東牧野町地内
- (2) 府営枚方牧野東住宅建替え
- (3) 横田 明・奥 和之

はじめに

今回の調査は、平成17・18年度の2箇年度にわたり実施した。調査地区は、遺跡範囲の西側、中央より西にあたり、調査面積は、約11,056m²を測る。検出した遺構の時期は、古墳時代前期、平安時代、中世のほぼ3時期に分かれる。

古墳時代前期の遺構 古墳時代前期と推定される主な遺構は、竪穴住居跡、土坑、焼土坑、溝などである。

検出した竪穴住居跡は8棟で、これらは規模、形状等においてバラエティに富んでいる。住居跡は、平面形で隅丸方形に近い形を呈し、特に住居1と住居3の2棟は、多くのものが一辺5m前後であるのに対し、2棟の住居跡は一辺が7.5m前後を測り、ずば抜けて規模が大きい。住居跡外側には幅3m前後離れ、住居を取り巻くように方形に近い溝を巡らせており、出土した遺物は、普通の住居から出土したものとほとんど変わりがなく、遺物からは階層差は認められない。

また、住居1の壁溝には、平面・断面観察の結果、幅約20cm、厚さ2cm前後の板状の痕跡が認められた。このことから、住居は平地式に近く、壁溝内に垂直に板を貼った後に周庭帯に土砂を盛り、住居の壁を作っていたものと推定している。

平安時代の遺構 平安時代の主な遺構は建物で、2棟検出した。建物と建物の間は約110mと離れて検出したことから、調査区内では散村という風景を醸し出している。

その中で調査地区的北西側で検出した建物2は、2間（約3.3m）×2間（約3.3m）の総柱建物で、東側に庇が付く。柱穴は隅丸方形に近い。建物に庇が付くということなどから、倉庫というよりも住居

に使用されたものと考えている。柱穴内からは、黒色土器の小片が出土している。

中世の遺構 中世の遺構は、建物1棟、柱穴群、土坑などである。その中で調査地区的東北側で検出した建物1は、2間（約4.0m）×3間（約5.0m）を測る。周辺には、中世の遺構が検出されなかったことや、建物の規模が小さいことから、住居ではなく作業小屋に近いものと考えている。

まとめ

これまで調査を行った招提中町遺跡の遺構の分布状況から、今回の調査区での遺構の密度は全体的に薄く、点在している。その中で古墳時代前期の遺構は、最も多く、北東に行くに従い少なくなる傾向を示している。また、遺構密度が少なくなる地点周辺に大型住居が築かれている傾向が認められる。

平成10・11年度に調査を行った、調査地区的南側では前述した時期の遺構と共に、弥生時代中期、飛鳥時代の遺構が検出されている。しかし、今回の調査では、その時代の遺構が全く検出されず、これらの時期の遺構はこの地区までは及んでいないことが確認された。



第5図 住居1 (西より)



第5図 住居1 (西より)



第7図 建物2 (西より)

たかぎ 高木遺跡（06004）

- (1) 松原市北新町4丁目地内他
(2) 都市計画道路堺港大堀線整備事業
(3) 地村邦夫・岡 真一

本調査は、都市計画道路堺港大堀線整備事業に伴う確認調査である。道路新設予定区域に11ヶ所のトレンチを設定し、調査を実施した。

調査の結果

煩雑になるのを避けるため、大きく西部（1、2トレンチ）、中央部（3～5トレンチ）、東部（6～11トレンチ）に分けて概略を述べる。

1、2トレンチ

1、2トレンチは流川左岸に設定した調査区である。現地表面のレベルは1トレンチがT.P.+11.6m前後、2トレンチがT.P.+12.4～12.5mである。2トレンチの方が約1m高いが、調査の結果すべて近年の盛土であることが判明した。

両トレンチともT.P.+11.1m前後で中世もしくはそれ以前の自然河川であると考えられる砂疊層を検出した。砂疊層の厚さは、薄いところで0.6m、厚いところでは1m以上ある。トレンチの幅が狭いため、流れの方向は不明だが、河川の肩が検出されていないことや地山面を削りこむ河川の痕跡から考えると、蛇行しながらほぼ東から西に流れていた可能性が考えられる。

3～5トレンチ

3～5トレンチは流川右岸に設定した調査区である。現地表面のレベルは3、4トレンチがT.P.+12.2m、5トレンチがT.P.+12.5mである。

遺構面は2面確認した。第1面は灰褐色上上面である。検出レベルはT.P.+11.9～12.0mである。本面では幅0.2～0.3m、深さ0.2m程度の小規模な溝を多く検出した。溝の方向は南北方向のものが多く、1.8～2.0m間隔で並んでいる部分も確認した。おそらく耕作に伴う溝と考えられる。時期は断定できないものの、中世後半～近世と考えられる。第2面は地山面である褐灰色砂質上上面である。本面のレベルは3、4トレンチでT.P.+11.9～12.0m、5トレンチ東端でT.P.+11.5mであり、東へ行くほど徐々に低くなることが明らかになった。本面で検出した遺構は溝、ピット、土坑などである。トレンチの幅が狭いため、ピットの並びは確認できなかったが、集落が営まれていた可能性が高い。これらの遺構の多くは奈良時代のものと考えられる。

6～11トレンチ

西除川左岸に設定した調査区である。現地表面の

レベルは6、7トレンチでT.P.+12.9～13.0m、10、11トレンチでT.P.+13.4～13.7mと西除川に向かい次第に高くなる。

6～11トレンチの間は西除川の旧流路もしくは氾濫原にあたる。特に10、11トレンチは砂疊層の厚い堆積や砂疊とシルトの互層が確認された。一方、西除川からやや離れた6～9トレンチではT.P.+12.2m付近で近世の砂疊層に覆われた灰色粘土層を確認した。この灰色粘土層上面の一部では、畦畔や畝かと思われる凹凸が確認されており、中世の遺構面である可能性が考えられた。

まとめ

調査の結果、1～9トレンチで遺構、遺物を検出した。特に3～5トレンチ周辺は西除川、流川の影響が少ない安定した区域であり、奈良時代の集落が営まれていた可能性が高い。



第8図 調査区位置図 (S=1/7,500)



第9図 3トレンチ（西から）

やまと がわいまいけ 大和川今池遺跡 (06007)

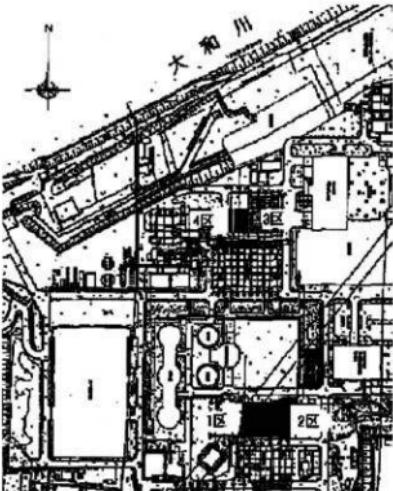
- (1) 松原市天美西7丁目地内
- (2) 今池水みらいセンター内建設工事（焼却炉棟）
- (3) 杉本清美

大和川今池遺跡は、松原市天美西、堺市北区常磐町、大阪市住吉区庭井に跨って所在する遺跡である。昭和52年に今池処理場（現今池水みらいセンター）の建設工事に先立つ試掘調査で確認され、以降今池処理場内の建設工事や大和川高水敷整備事業などに伴い発掘調査が実施されている。これまでの調査で、奈良時代の「難波宮」朱雀大路の南延伸上となる「難波大道」が確認されたほか、古墳時代の集落跡や生産遺跡がみつかるなど、旧石器時代から連続と続く遺跡であることが明らかとなっている。

今回の調査は、今池水みらいセンター内の施設建設工事で、焼却炉棟建設に伴う発掘調査である。平成17年度に焼却炉棟の東部（3区）について調査を実施したが、西側に既存の道路があり、埋管が布設されていることから、調査区周縁に矢板を打設した後、調査区（4区）を設置し調査を実施することになった。調査面積は、118m²である。

4区は、昭和54年度に発掘調査を実施した第5調査区の北側に位置し、平成8年度に実施した第2地区の東側に近接する。現地盤（T.P.+13.0m）から層厚4mの盛土及び旧耕土を機械で除去した後、人力で構造物の確認に努めた。第1面では、南北方向のスキ溝を検出した。包含層からは瓦質羽釜や束播系片口鉢、瓦器楕、瓦片などが出土した。第2面では、耕作面が数層重なっており、南北方向のスキ溝と畦畔が確認できた。第3面では、昨年度実施の3区から伸びる東西方向の溝や浅い不定形土坑がみられた。土坑内から、須恵器杯身、杯蓋、高杯、甕や土師器高杯、斐部片などの細片が出土した。さらに、下層では平成8年度に実施した第2地区に統くとみられる旧河川跡を確認することができた。黄褐色砂および細砂が約1mの厚さで堆積していた。遺物は出土しなかった。

今回の調査では、連続と重なる耕作土跡、不定形土坑と溝などのほか、時期は不確定であるが、旧河川跡を確認することができた。比較的構造が希薄な地帯であったが、近接した地点で古墳時代の集落域や中世の瓦が土坑内から大量に出土するなどの成果がみられることから、大和川今池遺跡内における歴史的・地理的環境を復元する上での資料になるものと思われる。



第10図 大和川今池遺跡調査区位置図



第11図 大和川今池遺跡 3・4区全景

はやし 林遺跡・國府遺跡 (06009)

- (1) 藤井寺市沢田3丁目・國府1丁目
- (2) 主要地方道堺大和高田線交差点改良工事
- (3) 小山田宏一

はじめに

平成18年度は、暫定歩道・車道の設置にともない移設される水道・下水道の引き込み部の調査を実施した。調査区は6箇所、いずれも小面積で、1～5区が林遺跡、調査6区が國府遺跡になる。

調査成果

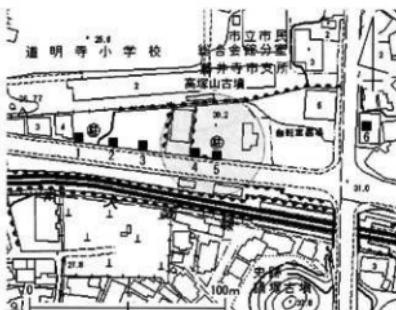
遺構は1・3区で検出した。1区は旧耕土を除去し地山面で溝、柱穴、土坑を検出した。性格や年代は不明。3区は地山面で、埴輪片を敷き床をつくる7世紀の埋葬施設を検出した。全長(推定)2.6m、幅0.6m。埴輪は5世紀前葉の円筒埴輪だが、施設の年代は頸部付近と推定される南端に副葬されていた須恵器(高杯と脚台を打ち欠く長頸壺)の型式から7世紀と判断した。

3区から4・5区にかけては、道路盛土下に粘土混じりの砂礫土の高まりを確認した。3区と4区の比高は約2m。3区が1950年代後半に堺大和高田線敷設工事で削平された高塚山古墳の西裾付近にあたり、東に続く砂礫土の高まりは古墳の基底部になら

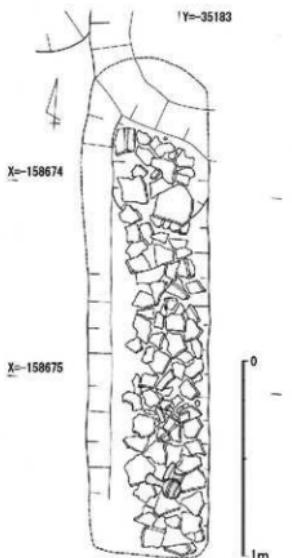
う。調査区が狭く砂礫土が地山なのか盛土なのか結論は出せなかつたが、5区東自転車駐場場(現市営駐輪場)の調査で地山の標高が約28mを測ることから、頂部標高が約30mに達する砂礫土は基底部の盛土と判断される。

まとめ

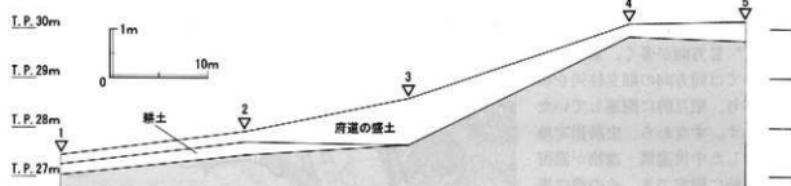
高塚山古墳の基底部を確認した。本線の調査では埴輪・規模等が確定できるものと期待する。



第12図 調査地点位置図



第13図 墟輪を敷いた埋葬施設



第14図 調査地点の地形断面図

さくらいえきあと
桜井駅跡 (05025・06010)

- (1) 島本町桜井1丁目地内
(2) 一般府道桜井駅跡線自歩道・主要地方道西京高槻線歩道整備工事
(3) 一瀬和夫・岡田 賢

大阪府三島郡島本町桜井1丁目に所在する桜井駅跡・楠木正成伝承地に南接してJR線の新駅が設置される。それに伴い、阪急京都線水無瀬駅と連絡する一般府道の自歩道整備工事計画が持ち上がった。これを受けて本府教育委員会は平成17年度上半期に試掘調査を実施し、遺跡が東側に広がることが判明し、現在、その発掘調査を行っている(東西区)。

これに併行して平成18年度下半期には、都市計画道路桜井駅跡線(駅前広場)整備用地に東接して南北にはしる西国街道でもある主要地方道の歩道整備工事予定地の西側拡幅部も調査した(南北区)。

東西区では、東端で弥生第II様式の埴形土器を含む溝や周溝状の遺構、下で黒灰色粘質シリトの縄文土器包含層を確認した。中央から東端にかけて、弥生第III・IV様式の上土・落ち込み・溝を、さらに、庄内・布留期の壺・甕形土器を含んだ溝や整地層など。そして、同軸の5世紀後半から6世紀前半の炭化物層を含む溝や掘立柱建物も検出した。

さて、8世紀以降の古代は重層的な耕作層が東西区で見られ、古代の土器は主に西半に分布する。酸化面をもつ多少の起伏がある8世紀後半の面から上層は水平に積み重なる一連の堆積があり、それらは13-15世紀を中心としている。このことから、中世期に至って安定した耕作面が広く獲得されたことが分かる。

東西区からすれば西端に位置する南北区は、下部が中世面に削平されるが、当該期で2面が確認でき、南北柱列と東西溝を検出した。北側の島本町教育委員会が検出した中世屋敷地が広がることが判明した。

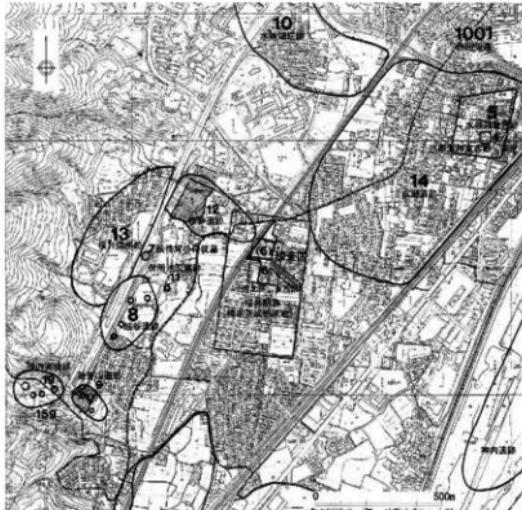
こうした所見のうち、特に注目できるのは、桜井駅跡周辺の遺構である。東西区全域に及ぶ東西南北の小溝はN7°E方向が多く、また南北区においては同方向の掘立柱列を検出しておらず、相互に関連していたことを示す。すなわち、史跡指定地を中心とした中世遺構・遺物が濃密な場所が特に限定でき、その境は東西区の西端あたりとなる。また、南

北区はT.P.10.5m前後が中世主要面となり、遺物出土の集中とともに、掘立柱建物・石組み井戸などの屋敷地に伴うであろう遺構が分布する。これに対して、東側がT.P.10.1mへと一段下がった平坦面となっており、終始、小溝を伴った耕作地となる。

この境を屋敷地東辺として考え、北側を見ると、遺構面が平成18年度の島本町教育委員会の調査で史跡指定地をこえるところで下がることが分かり、これを北限とすることができます。南側は島本町立歴史文化資料館用地から現況周囲が一段下がることから南限となり、南北方向に180×120mの範囲の屋敷地が想定できる。

一方、東西区で検出した小溝群を伴った整地層は調査区東端まで途切れることから、史跡桜井駅跡から東方にある南北に流れる高川までが耕作地の最小小区画となる。川はこれより北側250m程で大きく屈曲することから、これが生産域をも囲む区画の北東隅にあたるとすれば、550×310mの南北方向の長方形の外城区画が存在することになる。

そうした区画の存在が、今回の調査では考えられるようになった。



第15図 桜井駅跡調査区と周辺の遺跡

ほり 堀遺跡 (06013)

- (1) 松原市天美南5丁目地内
- (2) 都市計画道路堺港大堀線整備事業
- (3) 地村邦夫

はじめに

昨年度に引き続き、都市計画道路堺港大堀線整備事業に伴う調査を実施した。調査区は二ヶ所あり、西側をA区、東側をB区とした。

A区の調査

第1面 本面は近世の遺構面である。レベルはT.P.+13.2mである。自然河川、溝、土坑を検出した。自然河川は本面から第3面まで確認されており、各遺構面で土手状の高まりも検出していることから、一時的な流れではなく、中世から近世に至る西除川の旧流路のひとつと考えられる。

第2面 本面は中世の遺構面である。レベルはT.P.+12.8mである。自然河川を検出した。

第3面 本面は中世の遺構面である。レベルはT.P.+12.6mである。自然河川、井戸、溝を検出した。井戸からは瓦器碗や土師器羽釜が出土した。

第4面 本面は奈良時代～平安時代の遺構面である。レベルはT.P.+12.0mである。畦畔と鋤溝、足跡を検出した。

B区の調査

第1面 本面は近世の遺構面である。レベルはT.P.+13.1mである。井戸、溝、土坑を検出した。溝には幅2～3m程度の大規模なものが3条あった。近世の用水路と考えられる。

第2面 本面は中世の遺構面である。レベルはT.P.+12.7～12.9mである。遺構はほとんど検出されなかつたが、おそらく水田面と考えられる。

第3面 本面は中世の遺構面である。レベルはT.P.+12.6～12.8mである。畦畔、鋤溝、足跡を検出した。鋤溝はすべて南北方向であった。

第4面 本面は中世の遺構面である。レベルはT.P.+12.3～12.6mである。畦畔、鋤溝、足跡を検出した。鋤溝はすべて南北方向であった。

第5面 本面は中世の遺構面である。レベルはT.P.+12.2～12.5mである。畦畔、鋤溝、足跡を検出した。本面のベース土は粗砂と砾を多く含む黒色土であり、客土と考えられる。中世における当地の本格的な再開発を示すものと考えられる。

第6面 本面は奈良時代後半～平安時代前期の遺構面である。レベルはT.P.+11.9～12.1mである。井戸、ピット、畦畔、溝を検出した。井戸は方形に木枠が組まれたもので、埋土から奈良時代の土器が多く出土した他、堀方から神功開寶1点が出土した。

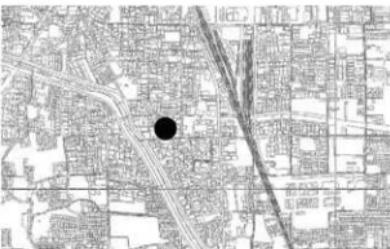
井戸、ピットはいずれも溝に切られており、平安時代前期に調査区全面が水田にされたようだ。

第7面 本面は奈良時代の遺構面である。レベルはT.P.+11.8～12.0mである。ピット、畦畔を検出した。遺構の分布から調査区西半部が水田域、東半部が集落域であったと考えられる。ピットは平面形が方形で、一辺0.5m前後のものが多いが、中には一辺1m前後の大方形のものもあった。

第8面 本面は奈良時代の遺構面である。レベルはT.P.+11.6～11.8mである。溝、道路状遺構、足跡を検出した。

まとめ

今年度の調査では、奈良時代に集落と水田が営まれたこと、中世に再度水田が開発されたこと、近世末に集落域が本地周辺に広がったことを確認することができた。



第16図 調査区位置図 (S=1/15,000)



第17図 B区〔北半部〕第8面（東から）

ひらいし 平石遺跡（06014）

(1) 河南町平石

(2) 中山間地域総合整備事業「南河内ごせ地区」

(3) 桥本 哲

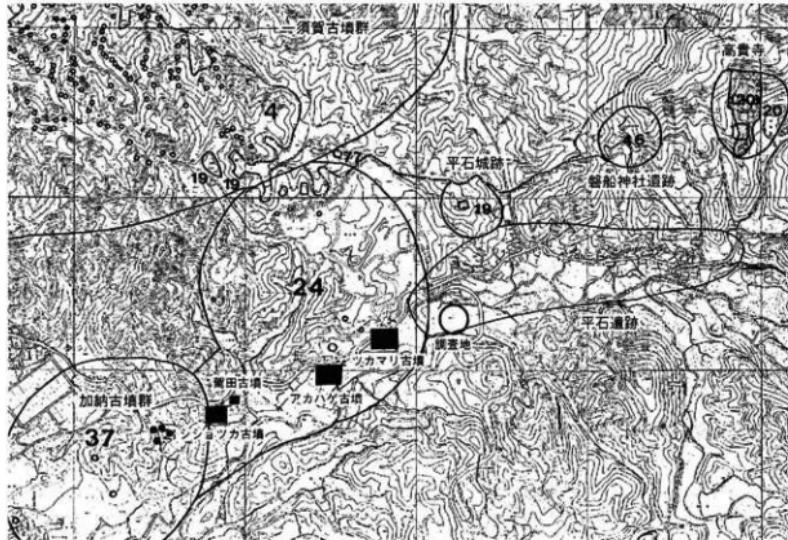
今回は、標題の事業に伴う最後の調査である。調査区は平石遺跡の西限に接し、ここで平石谷は大きく蛇行して、対岸はツカマリ古墳が築かれる尾根に面する。昭和50年代半ばのグリーンロード敷設の際に東側の山塊から断ち切られて、独立したような尾根先端の平端部をなしているが、本来は東側の「菖蒲谷」山の西尾根の斜面地にある。事業により削り取られる予定の部分を中心に4箇所の調査区を設けた。いずれの地点でも現在の棚田の基礎となる旧い造成に伴う堆積土を確認し、それらの土層より計1箱分の縄文・弥生・飛鳥奈良・鎌倉・近世などの磨滅した土器片や石器（石鎚・石匙など）、サヌカイト片が出土した。遺構としては焼土を含む小土坑があるが、一部にサヌカイト片を含んでいた以外出土遺物はない。

昨年度の調査結果〔『平石遺跡発掘調査概要・1』〕にも触れたように、14世紀中頃の北朝側の焼き討ち以後、平石地区は活発に棚田造成が行われて現在の景観が整えられた。平石谷左岸一帯が標高200m附近まで耕地拡張の対象となつたのもそれ以降のこと

とみられる。しかし近代に至っては重機を使用してさらに広く平らな棚田が築かれたため、出土遺物より推測される時期の遺構はその際の削平によってほとんど消滅し去ったようである。



第18図 調査区配置図



第19図 平石谷遺跡分布図

やすまつだ 安松田遺跡 (06016)

- (1) 泉佐野市東羽倉崎
(2) 府営泉佐野羽倉崎住宅代替
(3) 藤澤眞依

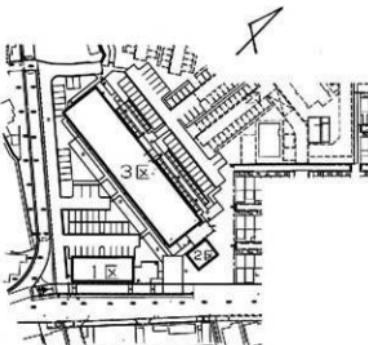
住宅經營室住宅整備課からの依頼により平成18年7月3日～10月31日に発掘調査を行った。調査対象範囲は東西120m、南北延長約80mの範囲である。1区機械室等200m²・2区集会所80m²・3区住棟部分1,240m²、合計1,520m²を調査した。

基本層序は、住宅建設時盛土0.3m、旧耕作土0.15m、床土0.05mで地山の黄色粘土となる。1区では黄色粘土上面で黒褐色粘土を埋土とする溝を1条検出した。2区では旧水田地割による段と土坑を30数基

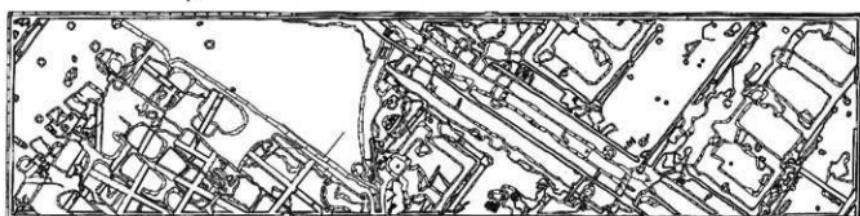
検出した。埋土の状況からは掘削後しばらく放置されたり、複数同時に埋められたりしていることが判る。土坑墓等の可能性は低く、粘土探掘土坑と考えられる。土坑は水田地割を意識しており、旧水田形成後の掘削と考えられるため、旧水田の開始時期が何時になるかで土坑の掘削時期も大きく動くものと考えられる。遺物は旧石器時代と考えられる剥片1点と數片の土師器や瓦器片と近世から現代までの陶磁器片が少數出土しただけである。遺物総量はコンテナに1箱である。



第20図 調査位置図



第21図 調査区配置図



第22図 3区遺構平面図

府中遺跡（06017）

- (1) 和泉市肥子町・府中町
- (2) 都市計画道路和泉中央線整備事業
- (3) 関 真一

はじめに

今回の調査地は、JR阪和線和泉府中駅の南側に位置し、線路をはさんだ東西両側である。東側をI区、西側をII区と呼称し、I区から調査を実施した。調査面積は計960m²である。

これまで当調査地周辺で実施された発掘調査では、縄文時代後期の遺物や弥生時代中期の方形周溝墓、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての河川などが確認されている。

調査の成果

I区は現代の盛土を除去すると、近現代の耕作土が現れる。耕作土中からは須恵器や瓦器の小破片が少量出土している。これを除去すると調査区一面を覆う砂礫層が認められた。砂礫層は一度に堆積したものではなく、複数回に及ぶ流水により形成されたと観察できる。この砂礫層中から、調査区北西部ではほぼ完形の小型丸底壺が1点出土している。

掘削を進めると、調査区東側を南北方向に流れる自然河川が確認され、それを埋没させた上砂の影響により、調査区内では東側が高く西側が低い様相を呈した。各層は主に砂質シルトで形成され、下層になると砂礫の割合が多くなる。この砂質シルトを掘削する中で、炭集積や土器溜りを検出した。

土器溜りは調査区南西部と南東部で認められた。出土した土器は主に縄文時代中期末の波状口縁の深鉢で複数固体出土している。最も残りのよい個体は、口縁部の約半分が残存し、同一固体と思われる胸部や底部片も多数出土している。また、南東部の土器溜りからは握り拳程度の焼土塊も土器片と共に多く出土した。この焼土塊の胎土は、共に出土した土器の胎土より精良である。

他に、擦石などの石器類も複数出土している。一方、これら遺物が出土した層では炭集積が検出された。I区の西部(炭集積1)と北西部(炭集積2)の2箇所に存在した。炭集積1は炭化した木材が良好な状態で検出できた。その周囲に炭が散布していた。いずれも、縄文時代中期末ごろの遺構と考える。

線路西側のII区では、現代の盛土層の下に粘性のシルトが堆積し、そこから須恵器や土器片が少量出土している。それを除去すると、I区と同様に砂礫層を認めることが出来る。ここでも複数回に及ぶ流水により砂礫層が形成されたことを観察できる。

この砂礫層中に弥生時代後期から古墳時代前期の土器が多く含まれており、小型丸底壺・甕・器台などが出土している。いずれも土器は調査区北東端から出土しており、I区北西端からII区北東端にかけて当該期の遺物を含んだ流路の存在が想定される。また、砂礫の様相から南北方向の流路と考えられる。

II区では、砂礫層以下では遺物を確認できず、部分的に炭が集積する様相を看取できた。

まとめ

I区において縄文時代中期末の土器が一定量出土したことは、和泉地域における縄文時代の様相を解明する貴重な資料と考えられる。また、石器類の出土も考えると、調査地周辺で生活が営まれた可能性が高く、住居跡など遺構の存在が予想される。今回の調査では、遺構を検出できなかったが、周辺での今後の調査成果が期待される。



第23図 炭集積1検出状況



第24図 縄文土器出土状況

たごり 田尻遺跡 (06023)

- (1) 泉南郡田尻町吉見地内
- (2) 一般府道新家田尻線歩道設置工事
- (3) 関 真一

歩道設置工事が実施されることとなり、工事対象地内に $2\text{m} \times 2\text{m}$ のトレンチを 6ヶ所設定し、遺構や遺物を確認する調査を行った。

基本層序は、上層より現代の盛土、砂礫シルト層、黄褐色の粘質シルト層（地山）である。

今回の調査では、3ヶ所（No.3、No.4、No.6地点）で遺物が出土している。遺物は全て細片で古代の須恵器や時期は不明であるが土師器片が認められる。

遺構は、調査区の面積が狭いこともあり明確に見出すことはできなかった。ただ、No.3地点で土坑の一部を検出することができた。この土坑は、古代の須恵器を含むシルト層上面からほぼ直角に掘削され、地山である黄褐色粘質シルト層中で底が検出されている。深さは約0.8mである。

このような遺構は、田尻町教育委員会による周辺の調査でも検出されており、いわゆる近世の粘土採掘坑と考えられている。今回の調査でも遺構の年代を知りうる遺物は出土しなかった。

さて、今回の調査により地山と考える上層のレベルを調査地点ごとに見ると、高低差の存在が明らかとなった。

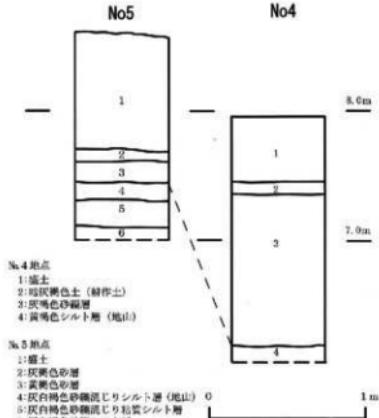
府道を挟んで位置し、直線距離では10mと近い距離にあるNo.1とNo.2地点を比較すると、No.1地点では現地表下約2.6mまで砂層であり、地山は全く確認できなかった。一方、No.2地点では現地表下約0.5mで地山を確認できる。急激な地山の下がりから流路方向は不明であるが、河川の存在を想定できる。

また、No.4地点とNo.3・No.5地点の地山レベルを比較すると、No.4地点の地山レベルが約1m低い。ここでも、地山が低い箇所には、砂礫層が堆積しており、埋没した河川の存在が想定される。その場合、想定される河川は府道に直行して流れていると考えることができる。

今回の調査地は南東から北西の海側へ一直線に走る道に沿っており、当初地山は海側に向かって緩やかにレベルを減じているものと思われたが、調査により複数の流路と起伏のある地形が復元される。



第25図 調査地点位置図 ($S=1/40,000$)



第26図 土層図
(レベルは吉見交差点を10.0mとした假ベンチマークである)

あやかわ 鮎川・ミクリ遺跡 (06024)

- (1) 高槻市西町地内
- (2) 都市計画道路富田日垣線整備事業
- (3) 井西貴子

はじめに 今年度の調査は昨年度(鳥飼八町富田線の鮎川交差点の北側・鮎川遺跡)の北側に位置する。東西約200m間、未買収地を残し7箇所に分けて調査を実施した。調査区全体での基本層序はほぼ同じ堆積状況を示している。第6層上面で足跡と大畦畔(C区)を確認した。部分的に実施した下層確認では、第6層下面から下に灰色砂層(約50cm)、淡黄色砂層(約40cm)、灰色粘質土から粘土(層厚不明)が確認された。

基本層序

- ①第1層 旧耕上。調査区ほぼ全域で確認される。標高5.8~5.9m。層厚0.1~0.4m。土師器・須恵器・青磁碗・染付などが出土した。開発以前の耕作土である。
- ②第2層 耕作上。調査区全域で確認される。標高5.3~5.6m。調査区によっては上面に鉄分が沈着している層でさらに分層できる。上層は小片であるが、弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器・磁器・陶器・昭和の陶器などが出土した。暗青褐色粘質土。
- ③第3層 耕作土。標高5.0~5.3m。調査区によつてはさらに細分される。中世の遺物を包含する。近現代の遺物の出土はない。暗青灰色粘質土。
- ④第4層 包含層。標高4.8~5.1m。灰黄褐色粘質土。

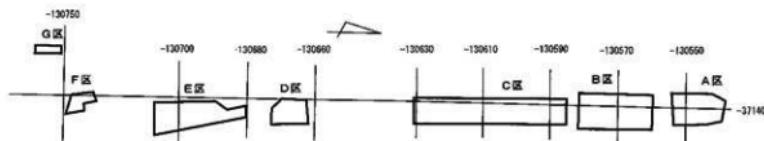
奈良時代から平安時代までの遺物を包含する。

- ⑤第5層 古墳時代包含層。褐灰色砂質土+鉄分含む。
- ⑥第6層 水田層。調査区全域で確認される。標高4.6~5.1m。層厚0.1~0.4m。庄内~布留式期の遺物が出土した。オリーブ褐色粘土。古墳時代前半の遺物を包含する。C区では、上面で足跡(人・動物)、大畦畔を検出した。
- ⑦追構埋土

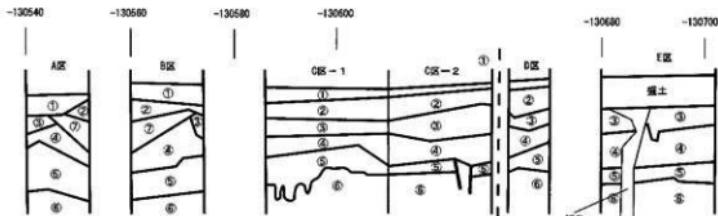
まとめ

2年度にわたって実施された調査である。

調査区は南北に長い範囲でトレンチ調査。いくつかの調査区で旧流路が北西から南東にかけて流れていたことが確認された。基本層序でも記してきたが、最下層は砂層堆積であり、弥生時代中期の段階ではほぼ調査区全域が流路であった可能性が指摘される。古墳時代初頭から前期にかけては粘質土が確認され、上面で足跡・畦畔を確認したので水田であったと考えられる。奈良時代から平安時代にかけては再び調査区によって砂層堆積が確認されるので、安定した状況ではない。その後中世以降は客土も含め、幾度かの耕作が確認される。昨年度調査区南端では耕作土層と同位層と認識できる層上面で柱穴が確認されており、集落は南に広がると推定される。



第27図 調査区位置図



第28図 基本層序模式図

おおまち 大町遺跡（06031）

- (1) 岸和田市大町地内
- (2) 府営岸和田大町住宅建替え
- (3) 上林史郎

はじめに

本遺跡は、岸和田市の市街地のほぼ中央にある。今年度の調査区は、奈良時代の高僧行基が築造したと伝えられる久米田池より流下する天ノ川の両岸に位置する。平成15~16年度に実施された第1期住宅建替えに伴う調査区の西側にもあたっている。調査は、住宅内の新設道路に伴う調査区(1区・2区)と住宅建設に伴う調査区(3区)を対象とし、平成18年10月から平成19年2月末日までの間に実施した。調査面積は1,840m²をはかる。

調査の成果

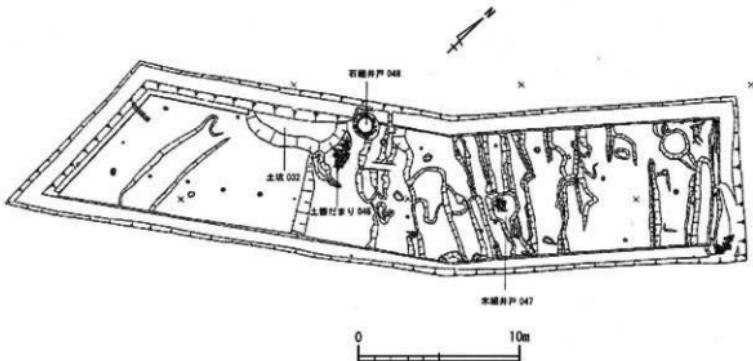
遺構では、弥生中期中葉の河川、弥生後期後葉の河川、鎌倉～南北朝時代の石組及び木組の井戸、土器溜まり、土坑などが検出されている。遺物では、鎌倉～南北朝時代の瓦・土釜・瓦器・土師器を中心にはコンテナ約40箱が出土している。

遺構の時期は、弥生時代と鎌倉～南北朝時代に大分される。ここでは主要な遺構について述べよう。
弥生中期中葉の河川　3区の弥生後期遺構面の空測終了後、調査区中央に長さ35m、幅3m、深さ0.7mのトレーナーを設定したところ、下層で弥生中期中葉の土器や自然木を含む河川堆積層を確認した。ベース面は完全な砂礫層である。これらの状況から、弥生後期の河川の下層に、その規模はわからないが、さらに大規模な河川の存在が推定されよう。

河川50　3区の東端で検出された弥生後期の河川である。西南から東北へ弧状にめぐる。その規模は、長さ20m以上、幅3m、深さ0.6mをはかり、断面はU字状を呈する。埋土は黄粘混じりの暗青灰色粘質土である。出土遺物は概ね少ないが、弥生後期後葉のタタキをもつ壺などが出土している。この河川は、本調査区の東側に位置する平成16年度1区の河道3に接続するものと考えられる。

木組井戸047　2区の中央やや東寄りで検出された。上部の構造は、一辺0.6mの範囲に杭や板を打ち込んで方形枠をつくり、それを横板で留めたものと考えられる。下部は、径0.45mと0.35mの二つの底の無い曲物桶を入れ子にし、外側を幅0.1mの曲物板で五段にわたって留めたものである。構築時期は、出土遺物から14世紀前半頃と考えられる。

石組井戸048　2区のほぼ中央北端で検出された。掘方は、径2.05m、深さ1.6mをはかり、断面は逆台形を呈する。掘方の周囲には、検出面から1.3mの深さまで、人頭大や拳大の河原石を巧みに貼り付け、石組を構築していた。なお、石組は控え積みが無く、一重である。石組の下部には、一辺0.5m前後の長方形板を四方に組んで貯水槽としている。なお、井戸内部の内法が狭く、かつ湧水が激しいため、層位的発掘はできなかった。ただ、埋土内より、釣瓶に使用したと考えられる径0.18m前後の曲物桶の



第29図 2区遺構図

一部や、漆器梱、瓦器、青磁などが出土している。それらから、本井戸の廃絶時期は、14世紀前半頃と考えられる。

土坑32 2区の石組井戸48の西側で検出された。大部分が調査区外にあたるため、全形やその規模はわからない。検出した規模は、長さ8m以上、幅2.5m以上、深さ1.1m以上である。断面は逆台形を呈し、平面形はおそらく隅丸方形を呈するものと考えられる。埋土内からは、コンテナ20箱に及ぶ瓦などが出土

土している。埋土の堆積状況をみると、徐々に埋まつたものではなく、一気に埋め立てられた様相を呈する。

こういった多量の瓦の出土や、石組井戸・木組井戸などの存在から考えると、大規模なものではないが、本調査区の近接した場所に中世の寺院(坊院)が存在したかもしれない。なお、瓦の中には、蓮華文の軒丸瓦瓦当も出土しており、寺院が平安時代後葉まで遡る可能性もある。



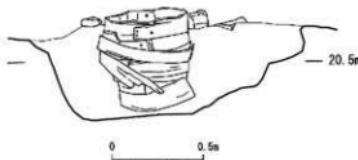
第30図 木組井戸47（南西から）



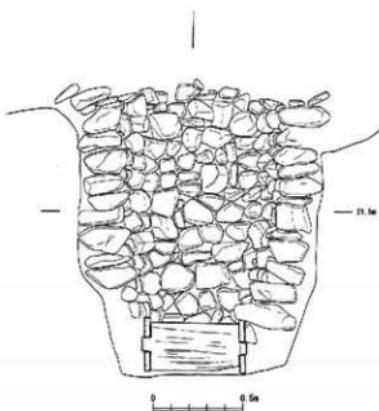
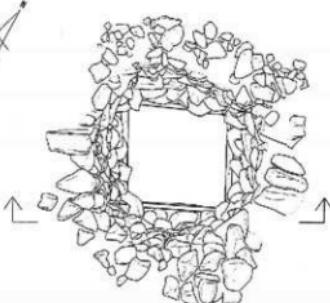
第31図 石組井戸48上面(南から)



第32図 石組井戸48側面（南西から）



第33図 木組井戸47側面図



第34図 石組井戸48平面図・側面図

旧府庁跡 (06037)

- (1) 大阪市西区江之子島
- (2) 旧大阪府立産業技術研究所大阪本所土壤改良工事
- (3) 江本 武

調査に至る経過

大阪市西区江之子島に所在した旧大阪府立産業技術総合研究所は和泉市に移転し、その跡地において2006年度に土壤改良工事が施工された。その際に煉瓦構造物の発見が通報された。

この場所はかつての大坂府庁舎跡で、その建物は明治7年(1874)に完成し、大正15年(1926)に現在の中央区大手前に移転するまでの間、地方行政の中心として機能した。さらにその後は大阪府工業奨励館として利用され、昭和20年(1945)の大坂空襲により焼失した。

発見された構造物は煉瓦の壁体で、この府庁舎建物基礎の可能性が高いと考えられた。しかしそれは工事に伴い撤去されることとなっていたので、工事関係者の協力を得て緊急調査を行なった。またあわせて建物全体の基礎遺構の残存状況を調べるために試掘トレンチを設定するとともに、工事によって出土した遺物の一部を探集した。

検出した遺構

A区 G.L.-1.2mほどの深さで煉瓦壁体が発見されたので、その周辺を掘削して全体を検出した。土壤改良工事による矢板打設のために一部破壊されていたが、残る壁体の遺存状況は良好であった。幅0.5~0.7m、高さ1.0~1.3m、延長は東西7m、その西端で北へ直角に曲がって1m伸びるもので、建物の南西コーナー部分と判断された。

煉瓦壁体の横幅(厚み)は、南西コーナーより4mの位置より西では0.7m、東では0.55mの違いとなり、平面の形状では段となる。この位置は間仕切り設置地点に相当するので、内側の部屋の仕切りによって外壁壁体の横幅を変えたものと思われる。

またこの内側の部屋については、床面のレベルおよび防水工事が丁寧に施されている点から、地下室と考えられる。記録によれば旧府庁舎は当初「二階建」で、地下室は記されていない。しかし大正5年(1916)増築後と思われる図には「地階」があるので、今回検出した遺構はこの時のものと考えられる。

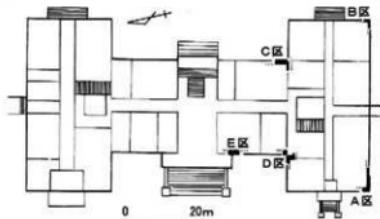
壁体の最下段の三段分に明治中期以降に出現するとされる赤褐色の煉瓦が使用され、そこから上には主として明治前期までの製作とされる黄色みのある煉瓦が積まれていることが判明した。そのなかに「授産所」刻印煉瓦が含まれている。

B区 B区では建物の南東コーナーと考えられる煉瓦壁体が発見された。これはA区の南西コーナーに対応するものと判断された。これによって旧府庁舎建物の南側外面の長さは44.7mであることが判明した。内法で24間(43.6m)の設計であったと思われる。

C区 C区では当時の府庁舎建物に伴うと考えられる石灰コンクリート布基礎を検出した。基礎の幅は1.5m前後、厚さ0.6mである。この下からは建物建設以前の近世遺構が観察された。

D区 D区は正面中央部に右翼部が取り付くコーナーの想定される地点である。その結果、平面的にはクランク状に曲がる煉瓦壁体を検出した。

E区 E区では石灰コンクリート布基礎と、その上面に据えられた御影石切石を検出した。これは当初建物に伴う基礎と考えられる。



第35図 旧府庁舎(増築後)平面図・検出遺構位置



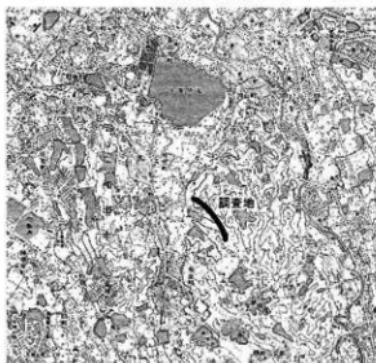
第36図 A区建物基礎煉瓦壁体(南から)

府道春木岸和田線試掘調査（06039）

- (1) 岸和田市三ヶ山町
- (2) 一般府道春木岸和田線道路改良工事
- (3) 藤澤眞依

交通道路室道路整備課からの依頼により平成18年10月30日～11月10日に現地試掘調査を行った。調査対象範囲は道路幅20m、延長約600mの範囲である。道路中心線上に幅1mのトレンチを7ヶ所設定した。

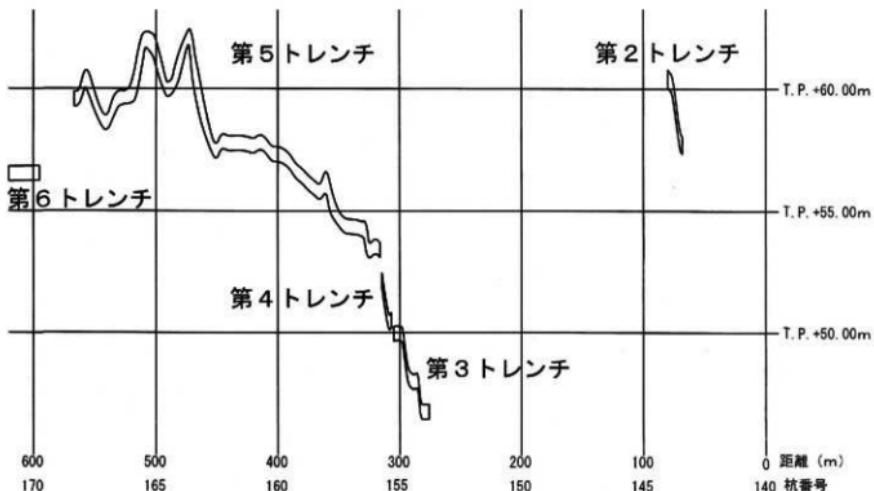
1・7トレンチは道路を横断するように伸びる尾



第37図 調査位置図



第38図 調査区配置図



第39図 断面模式図

やましろ 山城廃寺 (06049)

- (1) 南河内郡河南町大字山城
- (2) 府営ため池整備事業（山城新池）
- (3) 小山田宏一

はじめに

山城新池のため池整備事業（堤・洪水吐改修）に先立ち、その北堤が山城廃寺の遺跡範囲にはいるので、堤法据に 1.5×2.0 mの調査トレーンチ（1～4）を設定して確認調査を実施した。

山城廃寺と山城新池

山城廃寺（河南町山城字宮ノ前）は、河南台地を刻み北流する東条川と梅川に挟まれた段丘面にあり、白鳳の寺院跡として周知がはかられている。遺跡範囲は南北500m、東西300mで、方格に濃い網を掛けた範囲は藤澤一夫氏の推定した伽藍域である。推定伽藍城の東には降幡神社跡があり、昭和7・8年頃の社殿改築時に、奈良県川原寺や和泉市池田寺出土品に類似する軒丸瓦が採集されている。神社跡の西方には礎石が残っていたが、現在は町内の施設で保管されている。今回確認調査を実施した山城新池の北堤は、この山城廃寺の南端にある。

遺跡の所在する山城、別井、寺田地区は、千早川灌漑域の流末にあたり畠田三郷と呼ばれるほど水不足に悩まされた地域で、17世紀以降にために池の築造が始まる。周辺ため池で、山城新池は2番目に新しい、明治29（1913）年の築造である。西の古池、東の今池は谷口を塞ぎ止めるダム式のため池だが、山城新池は池内から採取した砂礫土を四周に積み堤を造る皿池である。

調査成果

堤盛土直下に耕上層があり、耕上層を除去すると地山面が現れ、調査区1・2で東西方向の溝、調査区3・4で柱穴の存在を確認した。

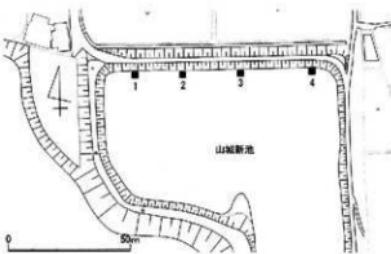
調査区3・4区の柱穴は密集していて、あわせて11基を数える。付近に建物があったことは間違いない。検出面の標高は67.5m。柱穴は平面形や埋土の特徴から2群（A・Bとする。）に区分することができる。A群は隅丸方形で、埋土に地山土がブロック状に混じる。調査区4では 120×75 cmの大形柱穴を確認している。B群は円形で、20～50cmの規模にまとまる。出土遺物は奈良時代から平安時代の須恵器・土師器が多く、遺構の年代は古代におさまると判断している。

まとめ

山城廃寺との関係は不明だが、遺跡範囲の南端に古代の建物群が存在していたことを明らかにした。



第40図 遺跡位置図



第41図 調査地点位置図



第42図 山城新池北堤

りょうき 陵西遺跡 (06052)

- (1) 堺市堺区中安井町3-4-1
- (2) 泉北府税事務所エレベータ設置工事
- (3) 西口陽一

はじめに

今回の調査は、大阪府総務部税務室税政課による泉北府税事務所エレベータ設置工事に伴う発掘調査である。面積は、幅3m長さ5mの15m²である。

調査結果

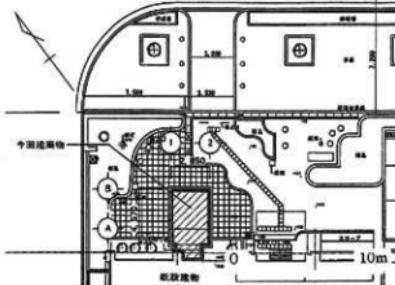
調査区は、フェニックス通りに面した府税事務所の玄関西側の建物に接した部分である。建物から1m部分は、過去の工事で破壊されていた。

標高6mの現地表面から40cm下までは、新盛土層で、その下に旧の耕土層・床土層が残っていた。その下に、厚さ5~10cmの遺物包含層があり、コンテナ1箱の量の奈良時代の土器（杯・杯蓋・高杯・甕など）、須恵器（杯・甕・釣鐘形イダコ壺など）と少量の鎌倉時代の瓦器碗・土器小皿、古墳中期の須恵器杯蓋などが出土した。

検出された遺構は、後世のかく乱が多かったが土坑3基、ピット5個、溝1条であった。遺構の切り合いから、溝はピットより古いものであった。溝や土坑、ピット3からは奈良時代の土器が出土し、ピット2の底からは鎌倉時代の瓦器碗片が出土した。

ピット3やピット4の大きさは、一辺50cm程度の方形で、深さは12~25cmであった。ピット1やピット5は、共に梢円形で、長さ40cm、幅25~30cm、深さ7~28cmであった。ピット2は、長さ75cm、幅50cm、深さ22cmであった。

土坑は、3基が東西に並んで隣接して検出され、梢円形で、幅60~70cm、長さ80~120cm以上、深さ23~42cmであった。溝は、東西方向に直線的に検出され、長さ3m、幅1.4m以上、深さ30cmであった。



第43図 調査区位置図

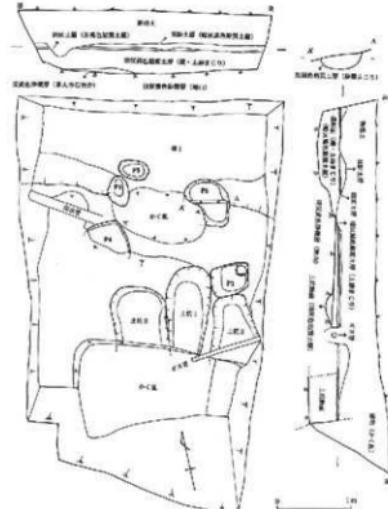
埋土は暗灰褐色粘質土層で、礫や土器が多数含まれていた。埋土の状況からすると、水が頻繁に流れていったような溝ではなかった。地山は、淡灰黄色の砂疊層であった。

まとめ

陵西遺跡は、古墳時代の玉造遺跡として著名であったが、今回の調査で、奈良時代の遺構・遺物が発見され、奈良時代の集落遺跡であることが分ってきた。地表下60cmに遺構が良好に残っているので、今後とも綿密な調査が必要である。



第44図 調査状況（東から）



第45図 平面図・断面図

い づ み で ら あ と
和泉寺跡 (06057)

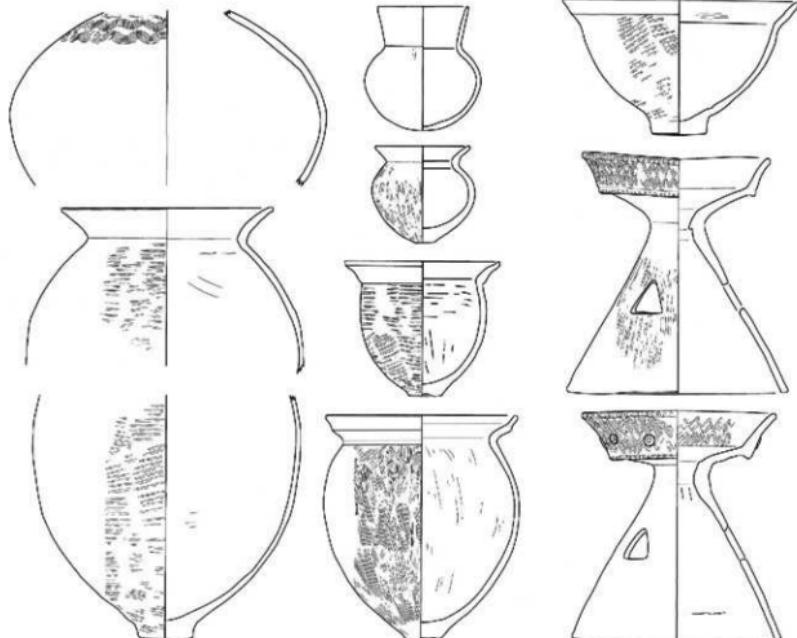
- (1) 和泉市府中町4丁目
(2) 都市計画道路大阪岸和田南海線整備事業
(3) 藤澤眞依

交通道路室街路課からの依頼により平成19年1月9日～2月16日に確認調査を行った。調査対象範囲は道路幅20m、延長約120mの範囲である。道路用地両端に幅1mのトレンチを6ヶ所設定し、延長160mを調査した。

調査地内の耕作土は大部分が除去されていた。1トレンチでの基本層序は①灰黒色土（耕作土）0.05m、②黄灰色粘土（末土）0.1m、③灰色土0.1m、④茶褐色土0.15m、⑤灰褐色粘土0.05m、⑥灰褐色砂礫0.4m以上となっている。⑥灰褐色砂礫上面は南に向かって緩やかな起伏を繰り返し下がる。5トレンチでは⑥灰褐色砂礫上面で土器溜とピット、⑦灰褐色粘土上面で溝を検出した。土器溜からは図示した庄内式並行期の土器が多量に出土した。特に器台はあまり見かけないものである。出土遺物はコンテナに3箱出土した。



第46図 調査地位置図



第47図 出土遺物実測図

しまいづみみなみ 島泉南遺跡 (06058)

- (1) 羽曳野市島泉1丁目
- (2) 一般府道島泉伊賀線交通安全施設等整備事業
- (3) 小山田宏一

はじめに

近鉄南大阪線高鷲駅西側踏切の北側に、長さ19m、幅2~3mの調査区を設定した。

調査成果

現代の盛土と中世・近世の耕土層を除去した地山(黄橙色粘土)面で遺構を検出した。地山面は標高26.4~25.8m、南から北に向かって緩やかに下る。古墳時代と古代末~中世の二時期の遺構がある。古墳時代の遺構はアミをかけた溝である。他の遺構は古代末~中世である。

古墳時代の溝は、全長10m以上、幅0.5~1m、調査区内で北端を確認している。溝内の北と南には土坑状のくぼみがあり、その間の一段高くなったところから須恵器・土師器の土器群を検出した。大半が完形で、土師器には小形直口壺1、大形複合口縁壺1、壺2、高壺1、須恵器には高壺2、壺身10、壺蓋2がある。須恵器は0.6×0.4mという狭い範囲に、上記の個体が集積していた。須恵器はTK216型式併行で、一括性が高い。

古代末~中世の遺構は、柱穴と土坑である。柱穴は調査区の北と中央にまとまるが、建物を復元するにはいたっていない。柱穴の年代は、瓦器を基準にすれば11~12世紀頃に中心がありそうである。柱の抜き取り跡には、土師器小皿を納めている例がある。調査区南端の土坑からは黒色土器、瓦器、土釜、平瓦、白磁等が出土した。

まとめ

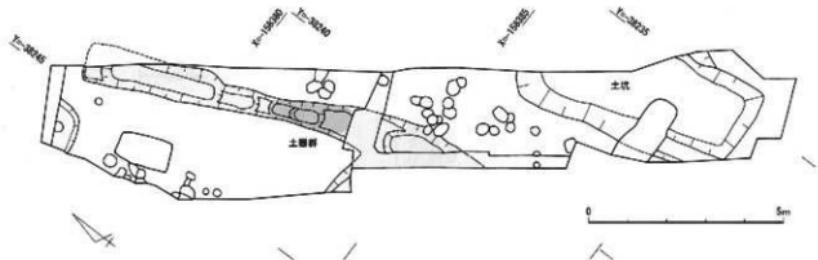
古墳時代中期と古代末~中世の遺構を検出した。古代末~中世の遺構群は、遺跡周辺における中世的開発の開始年代を考察する資料になる。



第48図 調査区位置図



第49図 S D01土器出土状況



第50図 遺構図

せんりおか 千里丘遺跡群 (06061)

- (1) 梶津市千里丘1丁目
- (2) 都市計画道路千里丘三島線道路改良事業
- (3) 小川裕見子

はじめに

平成17年度より継続して、JR千里丘駅の東西をつなぐ小坪井架道橋の拡幅工事が行われている。平成17年度は、当該道路の北側、JR線路西脇を200mに渡って調査し、中世を中心に、耕作の痕跡と柱穴、それらに伴う遺物を確認した。また、縄文時代のものと見られる地層より130点余りのサヌカイト製石器の集積を検出した。平成18年度は、17年度調査区の西側に隣接する178mの調査を行った。

調査の概要

最も遺構が集中していたのは平成17年度の調査同様、中世の遺構面であった。地山が北東から南西にかけて上昇し、傾斜地から平坦な面を獲得するため、中世の耕作面は、わずかにレベルの異なる3区画に分けることができた。それぞれに、ほぼ地山の傾斜と同じ北東から南西方向に走る鍛溝群と円形の柱穴群を検出した。鍛溝群は一番西側の微高地の区画において、他区画と比べ東西方向優位にわずかに振れる。掘立柱建物が5棟存在した可能性があり、主軸は鍛溝群とほぼ平行にある。うち1棟は、前述の調査区北西隅にあたる微高地にあり、この1棟のみ他

とは異なり、正東西南北方向に、ほぼ沿った方向にある。

古代の遺構面においては、調査区西半のやや高い部分では、遺構は削平されており、東半において、鍛溝群と隅丸方形を主とする柱穴群を検出した。

出土遺物は多くはないが、中世の遺構面を中心に、陶磁器・瓦器・土師器・須恵器片、古代の遺構面からは主に土師器の細片が出土した。

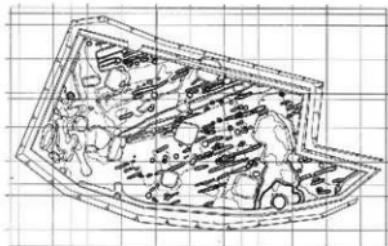
調査はさらに下層まで継続して行ったが、平成17年度調査に見られたような、サヌカイト片、及びそれに伴うと見られる遺構は検出されなかった。

まとめ

平成18年度調査の結果、遺跡の範囲は、平成17年度調査の結果を受けて千里丘1丁目遺跡第2地点とされている範囲を超えて、さらに西へ広がることがわかった。



第51図 調査区位置図



第52図 中世遺構面平面図



第53図 調査区全景

【資料紹介】

高槻住宅（北園遺跡）・高槻芝生住宅試掘調査

はじめに

高槻市北園町所在府営高槻住宅、芝生町所在高槻芝生住宅の建替工事に伴い、建替予定地内に各々3箇所・7箇所のトレンチを設定し、平成16年7月下旬から8月にかけて、試掘調査を行った。調査担当は一瀬和夫である。

高槻住宅試掘調査（04020）

高槻住宅内の試掘トレンチでは、遺構・遺物の検出・出土があった。

A 8 では土師器を含む中世包含層をO.P.+7.9m付近で検出した。A 6 では古代の土師器がO.P.+7.85m付近で出土した。A 7 では、古代の落ち込みをO.P.+8.15m付近で検出した。下層では弥生時代のピット・落ち込み・溝をO.P.+8.05m付近で検出した（第59図）。図面の遺物2~7はすべて土層断面図14付近、A 6 トレンチのマンガン粒を多く含む黒灰色ブロック土を含む淡茶灰色シルト層から出土したものである。

この試掘調査の結果を受けて、当該予定地は平成16年度新規発見遺跡、北園遺跡とされた。

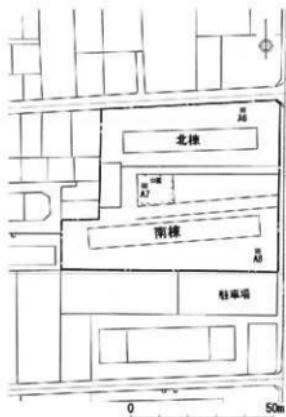
高槻芝生住宅試掘調査（04021）

高槻芝生住宅試掘調査では、遺構・遺物の検出・出土は多少は見られたが、高槻住宅試掘調査ほど顕著ではなかった。

遺構が検出されたのはA 4・A 5 トレンチの二箇所における畦畔と足跡のみであった。（第60図は土層断面図のA 5 トレンチ25上層。）遺物はA 1 トレンチT.P.+4.6m付近の赤・黒色粒含む灰色粘質シルトより弥生土器片、B 1 トレンチT.P.+4.0m付近の赤色粒を多く含む明灰色粘土より須恵器片等が出土したがいずれも磨耗した細片で固化し得るものではなかった。

第57図7が唯一固化し得た遺物であった。上層より出土した青磁であるが、攪拌を受けた層からの出土である。

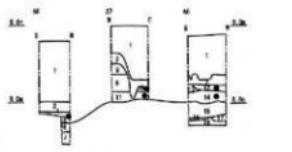
この試掘調査の結果、高槻芝生住宅内の7箇所の試掘トレンチでは、遺構・遺物の検出・出土は多少みられたが、周知の遺跡とはされていない。遺構・遺物が存在する可能性のある地層の深度が深いため、工事掘削深度が遺構・遺物の深度に到達しない場合は、慎重工事との判断をくだした。



第54図 高槻住宅（北園遺跡）試掘調査区位置図

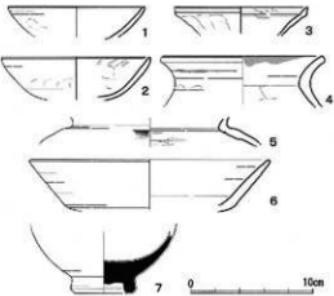


第55図 高槻芝生住宅試掘調査区位置図

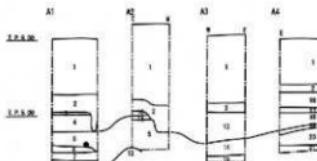


図説
1. 壁
2. 砂利充填土
3. 壁内にブロックで充填された漆喰層(本壁面なし)
4. 壁内に充填した漆喰
5. 壁・外壁の合板
6. 砂利・シングル層、漆喰層、和瓦上にワッカ(漆喰色鉛錆シート)(下部、古河一帯)
7. 漆喰層(瓦上、漆喰層上、漆喰層下等)
8. 和瓦(瓦の裏面、漆喰層、和瓦上にワッカ(漆喰色鉛錆シート)(下部、古河一帯)
9. 和瓦の裏面充填シート(瓦の裏面)
10. 和瓦の裏面充填シート(瓦の裏面)
11. 和瓦の裏面充填シート(瓦の裏面)
12. マンシング層
13. 砂利・シングル層、漆喰層(漆喰色鉛錆シート)(漆喰色合板に、下部、中野)
14. 漆喰層
15. 砂利・シングル層
16. 砂利・シングル層(漆喰色鉛錆シート)

第56図 高槻住宅(現・北園遺跡)試掘調査区土層断面図



第57図 1～6 高槻住宅(現・北園遺跡)試掘出土
遺物 7. 高槻芝生住宅試掘出土遺物



図説
1. 壁
2. フラットな土層(下部、漆喰色鉛錆シート)
3. 壁内に充填した漆喰層(漆喰色鉛錆シート)
4. 壁内に充填した漆喰層(漆喰色鉛錆シート)
5. 壁内に充填した漆喰層(漆喰色鉛錆シート)
6. 壁
7. 壁
8. 壁内に充填した漆喰層(漆喰色鉛錆シート)
9. 壁内に充填した漆喰層(漆喰色鉛錆シート)
10. 壁内に充填した漆喰層(漆喰色鉛錆シート)
11. マンシング層(漆喰色鉛錆シート)
12. 漆喰層
13. 和瓦の裏面充填シート(漆喰色鉛錆シート)
14. 和瓦の裏面(漆喰色鉛錆シート)
15. 和瓦の裏面充填シート(漆喰色鉛錆シート)
16. 中野の漆喰色鉛錆シート
17. 和瓦の裏面充填シート(漆喰色鉛錆シート、中野)
18. 和瓦の裏面充填シート(漆喰色鉛錆シート)
19. 和瓦の裏面充填シート(漆喰色鉛錆シート)
20. 和瓦の裏面充填シート(漆喰色鉛錆シート)
21. 漆喰層
22. マンシング層(漆喰色鉛錆シート)
23. 漆喰層(漆喰色鉛錆シート)
24. 壁
25. 壁
26. 壁
27. 壁内に充填した漆喰層(漆喰色鉛錆シート)
28. 壁
29. 壁
30. 壁
31. 壁
32. 壁
33. 壁
34. 壁

第58図 高槻芝生住宅試掘土層断面図



第59図 高槻住宅(北園遺跡)試掘調査 A7 トレンチ



第60図 高槻芝生住宅試掘調査 A5 トレンチ

【資料紹介】

旧府庁跡出土の刻印資料

「授産所」刻印煉瓦

「阪府 授産所」と刻印された煉瓦は、平成18年度旧府庁跡調査A区で検出された煉瓦壁体のうち、下から八段目の位置で発見された。表面が黄色味をおびた赤褐色を呈し、そして小口面に刻印されているところから、明治時代初期頃に生産された煉瓦と推測された。

「阪府」は当時の通例で右から横書きされている。そしてこれが「大阪府」の略であることは容易に推定できる。従ってこの「授産所」は大阪府の官営授産所であり、当該煉瓦は明治初期の救済福祉行政に関係する遺物であると判断された。

『明治大正 大阪市史』等の文献には、大阪府は発足当初の明治元年より救済事業を開始したことが記録されており、授産所と煉瓦に関係するところについては下記年表のようにまとめてみた。それによれば、明治5年（1872）1月に清水谷にあった大貧院を「授産所」と改称して煉瓦製造を教授し、同年8月に難波新地に「出張授産所」を設置して煉瓦や陶磁器製造の教授および賃金を与えて入所者に従事させ、翌6年8月にこれらの授産所を廃止したとされている。「従事」の表現からすると、煉瓦は授産

所のうちでも出張授産所で生産されたと考えられる。従って難波新地に所在した出張授産所が、明治5年8月から翌年8月までの1年間に煉瓦製造・出荷を行なった可能性が非常に高いといえる。

旧府庁舎の完成は明治7年であり、また出張授産所とは直線距離で約3kmの位置であることから、当授産所で製造された煉瓦が府庁舎建築に使われたものと判断できる。今回の刻印煉瓦発見はこれを裏付けるものである。

以上より府庁舎建物の煉瓦供給元の一つが出張授産所であったことは確実であろう。そしてこの資料



第61図 「授産所」刻印煉瓦

第5表 大阪府救済事業史 「授産所」関係年表

年次	救済事業
明治元年11月（1868）	・難波孤獨（寡婦や孤児・孤老など身寄りのない人たち）貧窮痴疾（極貧や障害者）のために「救恤場」を清水谷（現在の天王寺区）に設置。
4年4月（1871）	・救恤場廃止。
5月	・同所に「大貧院」を開設。
10月	・粉河町（現在の中央区）に「貧院分局」設置。
5年1月（1872）	・大貧院を「授産所」と改称。織物、裁縫、書字、養蚕、紡績、挽物、煉瓦、苗木栽培、養豚、藝細工等々の授産および教授。
5月	・貧院分局に「救助場」を開設。痴疾貧困者の救済。救貧と授産を分離。
8月	・「出張授産所」を難波新地（現在の中央区）に設置。煉瓦や陶器製造の教授および賃金を与えて従事させる。
6年8月（1873）	・授産所を廃止して同所に「第一勵業場」を設置。織物、晒、晒、裁縫、煉瓦製造、紙漉、養蚕等々を教授。 ・出張授産所を改称して「第二勵業場」。 ・平野町（現在の中央区）に「第三勵業場」を設置。養蚕、メリヤス製造を教授。
10月	・第一・第三勵業場を民間に払下げ。第二勵業場は煉瓦製造等を継続。
11年3月（1878）	・第二勵業場を民間に払下げ。
14年6月（1881）	・救助場を廃止。民間の救貧施設に移る。

第6表 大阪府救済事業史 各設置場所での変遷

年次	場所	明治元~4年 (1868~71)	4年 (1871)	5年 (1872)	6年8月 (1873)	6年10月 (1873)	11年 (1878)	14年 (1881)
清水谷（天王寺区）	救恤場	大貧院	授産所	第一勵業場	払下げ			
粉河町（中央区）		貧院分局	救助場	→	→	→	廃止	
難波新地（中央区）			出張授産所	第二勵業場	→	払下げ		
平野町（中央区）				第三勵業場	払下げ			

は大阪における福祉事業史研究にとって貴重なものとなる。

なお煉瓦製造は出張授産所廃止後の「第二勵業場」においても継続している。ここで製造された煉瓦も府庁舎建築に供給された可能性を考えることができるので、今回の調査では確認できなかった。

社印刻印煉瓦

当該地の土壤改良工事中において、大阪窯業、岸和田煉瓦、堺煉瓦の各会社の社印の刻印を有する煉瓦を採集した。そのうちの大坂窯業の刻印煉瓦には「子」字が付随していた。この会社の煉瓦には社印にカタカナ一字の刻印を伴うものが多いので、この「子」は「ネ」と読んだものと思われる。

他には製造所不明の「+」刻印がある。

「三石□□株式会社」刻印耐火煉瓦

全体に白色を呈する耐火煉瓦で、その平の面中央

の縱方向に「M三 三石□□□…」の刻印がある。「M」はローマ字ではなく山形で、「M三」で一つのマークとなる。「式會」と読める部分があるので、「三石煉瓦株式會社」ではないかと考えられる。この会社は耐火煉瓦製造で有名で、明治25年に岡山県備前市三石で創業され、現在に至っている。

他に耐火煉瓦では「CTK SK32」「OYT SK34」の刻印を持つものと「□K□=928」の印字の持つものを採集した。

「住田真十郎」刻印瓦

工事中に採集した井戸瓦である。府庁舎に伴う遺物かどうか不明であるが、小口面に「瓦師 住田真十郎」と刻印されている。これと同じ刻印は、近在では住友銅吹所跡の発掘調査で出土している。今のところ、この人物については不詳である。



授産所 S-1/1



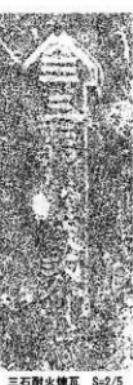
大阪窯業 S-4/5



堺煉瓦 S-4/5



岸和田煉瓦 S-4/5

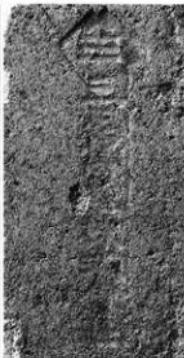


三石耐火煉瓦 S-2/5

第62図 煉瓦刻印拓本



煉瓦刻印各種



三石□□株式会社



瓦師 住田真十郎

第63図 刻印写真

— 平成18年度普及啓発・広報事業及び資料 —

1. 普及・広報事業

1-1. 研究会・検討会

■研究会

・第53回大阪府埋蔵文化財研究会

「ここまでわかった大阪の中世－近年の調査例を中心にして」

日時 2006年9月30日(土)

会場：大阪府教育委員会文化財調査事務所講義室

・第54回大阪府埋蔵文化財研究会

「近年の調査成果から」

日時 2007年3月24日(土)

会場：大阪府教育委員会文化財調査事務所講義室

・第24回出土木器研究会

日時 2007年3月3日(土)

会場：大阪府教育委員会文化財調査事務所講義室

■調査等スライド検討会

・第1回検討会 2006年5月10日(水)

「塚廻り古墳の調査」耕本 哲

・第2回検討会 2006年6月14日(水)

「能勢の考古学（最近の知見から）」辻本 武

・第3回検討会 2006年7月12日(水)

「府中遺跡の発掘調査」藤澤真依

・第4回検討会 2006年9月13日(水)

「藤屋北遺跡F調査区 古墳時代中・後期遺構面の調査」岡田 賢

・第5回検討会 2006年10月11日(水)

「千里丘遺跡群の発掘調査について」

小川裕見子

・第6回検討会 2006年11月8日(水)

「平成17・18年度桜井駅跡の発掘調査について」

一瀬和夫

・第7回検討会 2006年12月13日(水)

「余部日置荘」阿部幸一

・第8回検討会 2007年1月10日(水)

「總持寺遺跡の変遷」奥 和之

・第9回検討会 2007年2月14日(水)

「韓国における水利技術について」小山田宏一

・第10回検討会 2007年3月14日(水)

「縄文土器における特徴的胎土一角閃石を含む土器、結晶片岩を含む土器に突ついて」

河本純一

1-2. 発掘調査の現地説明会

・桑原遺跡（茨木市）

日時 2006年4月22日(土)

参加者数：約900人

・藤屋北遺跡（四條畷市）

日時 2006年8月12日(土)

参加者数：約300人

・招提中町遺跡（枚方市）

日時 2006年12月23日(土)

参加者数：約80人



第64図 藤屋北遺跡現地説明会

1-3. 博物館実習

2006年8月9日(水)～12日(土)、16日(水)

(計5日間)

博物館実習生（立命館大学生1人）を受け入れ指導した。

1-4. 所蔵資料の展示

a. 府立泉北考古資料館

■速報展

発掘調査と遺物整理事業などの成果をいち早く公開するために「速報展」を開催した。

・第31回「祈りの土器—祭祀に用いた品—」

会期：2006年3月9日(水)～6月4日(日)

展示品：墨書き人面土器7点（菅振遺跡・東郷遺

跡・成法寺遺跡）、木製仮面1点（尾道遺跡）、人形6点（西大井遺跡・河合遺跡）、斎弔4点（總持寺遺跡・万崎池遺跡）、土馬5点（福井遺跡・船橋遺跡）、

ミニチュア土器3点（河合遺跡）、舟形木製品2点（藤屋北遺跡・はさみ山遺跡）

卜骨2点（藤屋北遺跡）、鳥形木製品（讃良郡条里遺跡）、シカの線刻をもつ1点

土器（甲田南遺跡） 計32点

■企画展示

所蔵する出土遺物の中から、特定のテーマによる企画展示をおこなった。

・第1回「出土品に登場する生き物 動物編」

会期：2006年6月7日(水)～11月5日(日)

展示品：二神二獣鏡1点（馬子塚古墳）、撰文



第65図 出土品に登場する生き物 動物編

鏡 1 点（玉手山10号墳）、須恵器獸脚付有蓋壺 1 点（菅生出土）、鬼瓦 2 点（新堂廃寺）、シカが描かれた土器 1 点（甲田南遺跡）、鳥形木製品 1 点（雁屋遺跡）、鶴形埴輪 1 点（青山4号墳）、瑞花双鷲鷺文八稜鏡 2 点（大園遺跡）、馬形埴輪 1 点（青山4号墳）・ウマの下顎骨、齒 1 点（藤屋北遺跡）・土馬 4 点（陶邑窯跡群・福井遺跡・船橋遺跡・国府遺跡）

計16点

・第2回「出土品に登場する生き物 植物編」
会期：2006年11月8日（水）

～2007年6月3日（日）

展示品：ヒョウタン 3 点・木の葉の痕跡のある土師器甕 2 点（藤屋北遺跡）、木の葉の圧痕を付けた土師器碗 1 点（讃良都条里遺跡）、水辺水草蝶鳥文鏡 1 点・桜花双鳥文鏡 1 点・瑞花鶴文八稜鏡 1 点・青白磁菊花形合子 2 点（箕面經塚）、柄鏡 1 点（堺環濠都市遺跡）、金箔押瓦 2 点（大阪城跡）、軒丸瓦 5 点・軒平瓦 1 点（新堂廃寺）、軒丸瓦 2 点（海会寺）、軒丸瓦 4 点・軒平瓦 3 点（信太寺跡）、軒丸瓦 2 点（百濟寺跡）

計31点



■優品展

「大阪博物場」(1875/明治8年)に設置)が収集した陶磁を「府立大阪博物場旧蔵優品展」シリーズとし

て公開した。

・第8回「京焼の名工」

会期：2006年4月6日（水）～7月9日（日）

展示品：染付駿馬文菱水指（奥田頸川）、黄交趾五雲文急須（高橋道八）、刷毛目芋頭急須（高橋道八）、紫交趾牡丹唐草文鉢（永楽保全）、黄交趾梅唐草文三足香炉（永楽保全）、青交趾兎牡丹唐草文饅頭蒸（永楽保全） 計6点

・第9回「南海陶磁」

会期：2006年7月12日（水）～10月8日（日）

展示品：安南焼青花山水文壺、安南焼青花人物文茶碗、南蛮ハンネラ焼締叩文壺 計3点

・第10回「大阪の陶磁I 漆焼」

会期：2006年10月11日（水）

～2007年1月7日（日）

展示品：黄釉手桶形水指、黄釉土瓶、蛤釉四方水注、黄釉牡丹文皿 計4点

・第11回「大阪の陶磁II 古曾部焼・吉向焼」

会期：2007年1月10日（水）～3月11日（日）

展示品：古曾部焼褐釉印花水屋壺、吉向焼黄褐色亀置物、吉向焼紫釉土風炉 計3点

・第12回「大阪の陶磁III 難波焼・松齋焼」

会期：2007年3月14日（水）～5月6日（日）

展示品：難波焼錆絵切落手四方向付2口、難波焼褐釉犬香炉、松齋焼白釉平茶碗計4点



■府庁別館

府庁別館ロビー（1階・8階）に出土遺物を展示了。

・「文様の世界—雁屋遺跡出土の弥生土器—」

（1階）

・「総持寺古墳群—太田茶臼山古墳を中心とする在地有力者層の古墳群—」（8階）

会期：2006年2月15日（水）～8月10日（木）

展示品（1階）：文様のある弥生土器壺・甕・高杯・鉢・手彫形土器・器台（雁屋遺跡） 計9点

展示品（8階）：紡錘車1点、須恵器杯蓋・壺・高杯など5点、馬形埴輪3点、鶏形埴輪1点、家形埴輪2点（總持寺古墳）、円筒埴輪4点（太田茶臼山古墳）
計16点

・「文字・もじ・モジ」展（1階・8階）
会期：2006年8月11日（金）
～2007年2月23日（金）

展示品：墨書き人面土器2点（東郷遺跡・成法寺遺跡）、墨書き土器10点（長曾根遺跡・正法寺・大里遺跡・野間遺跡・池田西遺跡）、窓書き土器・刻印土器8点（陶器遺跡・大庭北遺跡・總持寺遺跡）、文字瓦7点（池田寺跡・大坂城跡・菱木下遺跡・新堂庵寺・信太寺跡）
計27点

・「土器・どき・ドキ」展（1階・8階）
会期：2007年2月26日（月）
～2007年8月15日（水）
展示品：須恵器杯蓋2・杯身2・有蓋高杯2・高杯蓋1・無蓋高杯1・はそう1・甕1点・樽型・はそう1・甕1点・壺1・把手付椀2・把手付壺1・蓋1（深田橋遺跡）
計17点



第66図 土器・どき・ドキ展（8階ロビー）

2. 資料件数

2-1. 出土資料（整理箱数）

■泉北考古資料館（堺市南区若松台）	10,750箱
■泉北収蔵庫（高石市綾園4丁目）	34,438箱
■大井収蔵庫（藤井寺市西大井）	12,580箱
■外環高架下収蔵庫（藤井寺市西古室）	7,490箱
■志紀収蔵庫（八尾市志紀町西）	3,090箱
■北部収蔵庫（摂津市鳥飼中）	3,090箱
■東大阪文化財収蔵庫（東大阪長田東）	73,650箱
■文化財調査事務所（堺市南区竹城台）	9,410箱
合計	154,530箱

2-2. 民俗資料

■文化財調査事務所

・谷口家資料	22点
・上辻家資料	13点
・守田コレクション	20点
・上平家資料	15点
・畠野家資料	6点
・三宅家資料	一括
・大恩寺資料	一括
・前西家資料	2件

2-3. 写真・図面その他の資料

■文化財調査事務所

・図面資料	4,837枚
・写真資料	7,225枚
・台帳	2,710冊
・パネル	725点

2-4. 図書

■文化財調査事務所

・図書	36,820冊
-----	---------

— 平成18年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行物一覧 —

大阪府埋蔵文化財調査報告

- 2006-1 「野端遺跡」
2006-2 「大町遺跡」
2006-3 「平尾遺跡」
2006-4 「西大井遺跡」
2006-5 「總持寺遺跡II」
2006-6 「禁野本町遺跡」
2006-7 「寺田遺跡」

概要報告

- 「陶器遺跡・陶器千塚・陶器南遺跡」
「平石遺跡発掘調査概要・I」
「部屋北遺跡発掘調査概要・VI」
「桜井駅跡発掘調査概要」
「加美・久宝寺遺跡発掘調査概要」
「大阪府教育委員会文化財調査事務所年報 10」

普及啓発資料

- 「国重要文化財指定記念 修羅」

- 文化財あれこれブックレット No.2

平成18年度資料貸出・掲載閲覧事業一覧

実物資料・複製資料長期貸出

申 請 者	道 跡	資 料 内 容・点 数	目的(展示内容等)
1 国立歴史民俗博物館	池上曾根遺跡	石泡丁3	計3点 総合展示「橋と住人」
2 九州国立博物館	陶邑宮遺跡 野々井遺跡 深田橋遺跡	須恵器杯身6・片蓋5・はそう1・短縁2・無蓋高杯1・杯蓋2・片身3・有蓋高杯3・台付長頭蓋1・萬杯蓋1・すり鉢1・把手付鉢1・小型壺1・はそう1	常設展・文化交流展示 「海の道、アジアの路」 計20点
3 大阪府立铁山池博物館	池尻城跡 大和川今池遺跡	青金1 圓1	常設展「中世の土地開発と铁山池」 計2点
4 大阪府立女性融合センター(ドーンセンター)	大阪城跡	美濃焼小鉢1・天目茶碗1・铁丸丸1・铁鑄鏡2・灰陶折沿盤1・灰陶萬皿1・灰陶豆1・灰陶肉付1・豆1・中國製白磁1・青花盤1・ペトナム製白磁1・金箔瓦4	常設展示(リフレッシュコーナー) 計17点
5 大阪府立西成高等学校	喜志遺跡 八尾南遺跡 宝附遺跡 麻押寺道跡 陶器南道跡	赤生土器蓋1 土師器口2・小形丸底1・高杯1・台付甕1 土師器蓋1 須恵器杯身1・有蓋高杯蓋3・有蓋高杯身3・はそう1・壺1 須恵器片コンテナ1箱	授業・展示 計16点・コンテナ1箱(須恵器片)
6 大阪府立大手前高等学校	大阪城跡	金箔瓦1・備瓦1・軒平瓦1・文字入り平瓦1・軒丸瓦1・天目茶碗1・分縁1・白磁香炉1・美濃酒漬1・鳥文青花大皿1・鈴1・斧1	授業・展示 計13点
7 大阪府立三国丘高等学校	向泉寺跡	軒丸瓦10・軒平瓦1・瓦3・羅漢瓦1・瓦器輪7・土師皿11・すり鉢1・土師器蓋1・羅漢瓦5・碟1	授業・展示 計40点
8 大阪府立茨田高等学校	茨田安田遺跡	赤生土器蓋2・須恵器杯5・高杯3・碗1・要4・こね鉢1・その他1・鉢式系土器蓋1・土師器蓋3・壺2・高杯3・碗1・皿4・瓦器輪3・皿1・火鉢1・釜1・磁器碗1・砾石2・下駄2・箸2・人形首1・土器1・キセル1・加工骨1	授業・展示 計67点
9 大阪府立四条畷高等学校	更良岡山遺跡 尾屋遺跡	円筒埴輪3・須恵器短頸蓋1・壺1・提瓶1 赤生土器蓋7・長頸壺1・無頭蓋1・鉢3・鉢蓋1・要2・台付甕2・台付甕1・壺3・高杯3・手捨り形土器2・黒色土器蓋1・土師器蓋2・須恵器平底1・無蓋高杯1・蓋杯蓋1・蓋杯身2・はそう1・壺1・砾石4・石礫5	授業・展示 計57点
10 大阪府立八尾北高等学校	豊都遺跡	赤生土器蓋1・長頸壺1・壺頭1・壺蓋1・土師器蓋1・須恵器有蓋高杯1・蓋杯蓋1・杯身1・壺蓋1・はそう1・円筒埴輪1・蓋形埴輪6・勾玉4・紡錘車2・臼玉8	授業・展示 計31点
11 篠勢町歴史資料室	上梅遺跡 尾道遺跡 九ノ坪遺跡 大里遺跡	須恵器蓋1 須恵器杯1・杯蓋2・円面環1・土師器高杯1 黒色土器蓋2・土師器小鉢3 赤生土器片1・壺3・無頭蓋1・鉢1・壺1・高杯1・土師器蓋1・要3・壺1・杯2・須恵器杯2・壺3・石底1・石縫7	能勢町歴史資料室(能勢町ふるさと文館内) 常設展示 計40点
12 篠町立郷土資料館	余野城跡	瓦器輪7・瓦器片20・土師皿4・須恵器片3・砾石1	郷土資料館常設展示 計35点
13 攝田市立博物館	吉志部瓦窯	軒丸瓦1・平瓦1・錐輪陶器片2・錐輪瓦片6・窯道具6	常設展示「桓武朝平安宮瓦窯」 計16点
14 藤井寺市立図書館	三ツ塚古墳	小型修羅1計1点	図書館展示室常設展示
15 市原市立みはら歴史博物館	余部遺跡	瓦器輪27・壺6・土師器皿1・瓦質羽差1・錐輪片29・錐輪羽口18・錐輪刀子1・青銅製品2・鐵馬糸遺物7・砾石7	常設展示「河内博物館」 計99点
16 太子町立竹内街道歴史資料館	伽山古墓	鐵製帶金具(レブリカ)1式	常設展示(第2展示室)
17 池上曾根弥生学習館	池上曾根遺跡	炭化米(No.286)1ケース	常設展示
18 和泉市いざみの国歴史館	府中連跡 坂本寺跡 大膳遺跡 池田寺跡 佐太寺跡 和泉寺跡 池上曾根遺跡	赤生土器高杯1・壺7・要2・壺形土器2 軒丸瓦1・軒平瓦5 有吉土器蓋2・子持勾玉2・滑石製勾玉1・蜻蛉耳1 文瓦6・軒丸瓦8・軒平瓦1・石製道方1 平瓦・人物陶像1・文字瓦4・軒丸瓦1・軒平瓦1 軒丸瓦1・軒平瓦1・軒丸瓦3 赤生土器蓋1・水差形土器1・壺杯3・鉢3・壺7・木製品高杯1・把手付鉢1・鉢1・斧1・壺の柄1・奉卓具(絆巻具)1・用途不明品1・小型四脚付盤2・口1・杓子2・旗3・蓋5・石縫2・大型石施12・環状石斧2・石斧2・石斧1・石縫3・皮拂3・イシイ勾玉1・管玉5・ガラス片3・イノシシの下駄骨1・鹿角1・青銅ヤス2・青銅未製品5・銅鏡2・八種鏡1	常設展示 計141点
19 サイエンス・サテライト	三野屋遺跡 池上曾根遺跡	縄文土器1 赤生土器1	常設展示「くらしの中の放送機利用」 計2点
20 吉志部神社	吉志部瓦窯	軒丸瓦1・軒平瓦1・錐輪瓦片2・トテン2	社務所玄関ロビーに展示 計6点

実物資料短期貸出

貸出先（申請者）	遺跡	資料名／点数	県民会名称等
大阪府立弥生文化博物館	難波遺跡	人物・シャーマンを描いた甕 1	春季特別展「弥生画帖—弥生人が描いた世界—」
大阪府立近つ飛鳥博物館	新堂廻寺 信太寺跡	人物畫面瓦 1 人物畫面平瓦 1	春季特別展「古代の工房—聖なる都・寺のさくらめき—」
泉佐野市教育委員会	長池7号墳	須恵器杯蓋 4・杯身 5・壺 2・捷瓶 1・土師器壺 1	新修泉佐野市史発刊記念展示「東扶野の考古学」
大阪府立近つ飛鳥博物館	三ツ塚古墳 津堂城山古墳 応神墳古墳 太田茶臼山古墳	小修繕 1 埴輪 2 埴輪 2 埴輪 1	秋季特別展「修羅」重要文化財指定記念「応神天皇の時代—河内歴権の墓とけい—」
和泉市久保惣記念美術館	池上曾根遺跡	合付無頭壺 1	特別展「和泉を彩る文化財—和泉の文化財と東洋美術の名品—」
大阪府立狭山池博物館	西大井遺跡 豊橋遺跡	木製人形方 1 番号人面土器 1	特別展「水にうつる願い」
大阪府立弥生文化博物館	池上曾根遺跡	弥生土器 2・ヒスイ勾玉 1	秋季特別展「弥生人躍動—池上曾根と吉野ヶ里—」
(財) 大阪府文化財センター (財) 大阪市文化財協会 大阪歴史博物館	御厨北遺跡	砥石 1・式系土器瓶 1・壺 1・平底鉢 1・瓶 1・製陶土器 3・ ふいごの羽口 1・瓶 3・移動式壺 1・木製輪鉢 1・鉄製曲刀 子 1・U字型板状土器品 1	重要調査に際わるシンポジウム 「古墳時代に生きた遠来人の軌跡—長浜遺跡・御厨北遺跡・上私部遺跡を中心—」
9 大阪府立近つ飛鳥博物館	御厨北遺跡 御良都条里遺跡	韓式系土器壺 1・壺 1・平底鉢 1・須恵器はそう（木枕付）1・ 高柄 2・土師器二つまと 1・壺突 1・なべ 1・U字型板状土 器品 1・鐵製直刀劍 1・刀子 1・釣針 2・鉄鎌 2・ト骨 1・木 製たり 1・刀形 1・えぐり 1・木縁 1・模型舟子 1・横櫛 1・竿柱 1・輪縄 1・壺 1・船形 1・船 2・鍛冶閣圓板形津 2・ 製陶土器 6・鐵燒土器片 1式・筋縫草 9・石製勾玉（未製品含 む）7・管玉（未製品含む）7・曰玉 9・有円孔 14・砥石 2・ ガラス玉 12（以上、御厨北遺跡）須恵器はそう 2（1点は木枕 付）、陶質土器無蓋高杯 1・壺 1・製陶土器 5・土師器瓶 1・ 木製劍 1・柄 1・指揮棒 1・コモゲタ 1・ツノコ 1・特 1・ 鐵燒具 1・盤 2・鉢 1（以上、御良都条里遺跡）	発掘された日本列島2006年度展 「河内削邊辺に定着した漢來人 —5世紀の漢來人の足跡—」
10 沼津市教育委員会	千里丘遺跡群	陶磁器 8・瓦器 9・須恵器 6・土師器 5・瓦 4・石器複合資料 22	沼津市内出土遺物展示「沼本市 から石器が出土・千里丘縄の縄 文文化」
11 滋賀県立安土城考古博物館	木の本遺跡	鷺文・弥生土器 5・木製旗未製品 2・木製鏡（未製品を含む） 2・木製斧柄（未製品を含む）4・石磨丁 5・多頭石斧 1・猪 石砧 1	春季特別展「鷺文から弥生へ— 農耕社会の形成と変年代—」
12 大阪府立弥生文化博物館	履屋遺跡 木の本遺跡	飼糞 4 木製繩引き弓 1	春季特別展「稻作とともに伝 わった武器」
13 (財) 大阪府文化財センター	四ツ池遺跡 木の本遺跡 古室遺跡 御厨北遺跡 御良都条里遺跡 東奈良遺跡	儀杖状木製品 1 馬糞 1・飼糞 1・台付槽 1 鉗矛 1 棍棒 1 把頭 1・鞍 1・刀形 1・椎 2・壺 1・神轎 1・地機怪具 1・ 机脚部 1 小型件 1	(財) 大阪府文化財センター小 テーマ展示「リーズここまでわ かった考古学」出土木器が語る 考古学－弥生時代・古墳時代の 絆
14 大阪府立近つ飛鳥博物館	衣模廣寺 お鬼石古墳 鳥坂寺跡 田辺廣寺 土師寺跡 河内國分寺 正法寺跡 信大寺跡 觀音寺 新堂廻寺	軒丸瓦 1・軒平瓦 1 平瓦 1 軒丸瓦 2・軒平瓦 3・魏尾 2・截面平瓦 1・文字平瓦 1 金銀製品 7・せん仏 2・三影火垂 1 軒丸瓦 1 軒丸瓦 1 軒丸瓦 4・軒平瓦 2・相輪破片 1 軒丸瓦 5・軒平瓦 2・墨書き土器 1 軒丸瓦 4・軒平瓦 1・刻印瓦 1 軒丸瓦 1 軒丸瓦 3・軒平瓦 2・墨書き瓦 2・魏尾 1・軒尾片 1・綾瀬金 物形土製品 1・せん仏 1・鬼瓦 1・須恵器 7・土師器 4・文字 瓦 1	春季特別展「河内古代寺院巡礼」
15 大阪府立近つ飛鳥博物館	御厨北遺跡	ワマ上被骨 1	模型（常設展示資料）製作

資料撮影、写真・図面等貸出・掲載

依頼者	撮影 掲載 貸出	種類	遺跡	資料内容／点数	目的／掲載誌
1 大阪市立大学	撮影 図面	池田寺跡 信太寺跡 兼善寺	軒丸瓦 9 軒平瓦 1 軒丸瓦 6 軒平瓦 1 軒丸瓦 4 軒平瓦 3		「和泉地域の軒瓦と古代寺院」 『和泉市史紀要』第9集
2 大阪府立弥生文化博物館	貸出 写真原板 掲載 ラー		雁屋遺跡	人物・シャーマンを描いた壁 1	春季特別展「弥生壁画－弥生人が描いた世界－」
3 大阪府立近つ飛鳥博物館	撮影 写真 掲載	新堂庵寺 信太寺跡		人物戲画瓦 1 人物戲画瓦 1	春季特別展「古代の工房－豊なる都・寺のきらめき－」
4 (株)学生社	掲載 図面	摩瀬山古墳		埴丘測量図 1 (『大阪府史跡名勝天然記念物調査報告』第3種)	『古墳時代の王権と軍事』
5 泉佐野市教育委員会	掲載 写真	長瀬 7 号墳		遺物出土状況 1 (『三軒屋遺跡発掘調査概要』I)	新修泉佐野市史典記念陳列 I 「泉佐野の考古学」
6 (株)越山閣	掲載 写真	春上山古墳		人物埴輪 1 (『古墳時代の研究』第9巻)	『古墳時代を考える』
7 (株)新人物往来社	掲載 写真	美原遺跡		遺跡航空写真 1 (文化財保護課ホームページ) 横穴式石室と埴丘 1 (文化財保護課ホームページ)	『月刊歴史叢書』2006年8月号
8 富田林市教育委員会	貸出 図面 写真原板 ラー	新堂庵寺		航空写真測量図 1、測量成果図 1、航空写真・垂 壁面事業の資料収集 直 1、航空写真・斜め 3	
9 ディスカバリー・チャンネル	掲載 写真	一須賀古墳群		金綱製馬文律達大刀・環頭部 1	テレビ番組「古代の日本」の プロモーション
10 枚方市中央図書館	掲載 写真	招福中町遺跡		弥生時代中町方型周溝墓 1、石磨丁・集合 1 (『招福中町遺跡』2001-1)	
11 (株)新泉社	掲載 写真	陶邑窯跡群		陶邑窯跡群開闢写真 50	『陶邑遺跡群』
12 個人	掲載 写真	陶邑窯跡群		陶邑窯跡群出土須恵器・集合 1	『新聞赤旗』芸芸コラム
13 富田林市教育委員会	貸出 写真原板 ラー	新堂庵寺		航空写真・斜め 3	壁面事業の資料収集
14 (社)藤井寺青年会議所	掲載 写真	三ツ塚古墳		修復出土状況 1 (藤井寺市広報撮影)	しゅら基金助成金交付応募要項の表紙
15 大阪府立近つ飛鳥博物館	貸出 写真原板 掲載 ラー	三ツ塚古墳 津守山古墳 応神陵古墳 太田茶臼山古墳		修復出土状況 4 埴輪集合 1 埴輪集合 1・埴輪外縫拡大 1 埴輪 1	秋季特別展「修羅」重要文化財指定記念「応神天皇の時代－河内政権の幕開け－」
16 和泉市久保惣記念美術館	撮影 写真 掲載	池上曾根遺跡		台付無頭蓋 1	特別展「和泉を彩る文化財－和泉の文化財と東洋美術の名品－」
17 和泉市教育委員会	貸出 写真原板 掲載 ラー	池上曾根遺跡		発掘調査風景 3	『和泉市50年のあゆみ』
18 市長	撮影 ビデオ 掲載	陶邑窯跡群		泉北考古資料館展示品	導観PRビデオ制作
19 大阪府立狭山池博物館	撮影 写真 掲載	西大井遺跡 壹振遺跡		木製人形殻 1 墨書き土器 1	特別展「水にうつる庭い」
20 社団法人櫛原考古学協会	掲載 写真図面	長持山古墳 玉手安福寺横穴 通明寺子塚の露出 石室など		埴丘・石室等 10 (『大阪府史跡名勝天然記念物調査報告』第 5 集) 測量実測図 1 (『大阪府文化財調査概要1972年度-I』)	『ロマイン・ヒッチコック－落日ニカ年の足跡』
21 (財)大阪府文化財センター	貸出 写真原板 掲載 ラー	藤屋北遺跡		SK940馬全身骨格の出土状況 1 藤屋北遺跡測量区全景 1 (『藤屋北遺跡発掘調査概要』I)	重要調査に際するシンポジウム「古墳時代に生きた渡来人の軌跡－長原遺跡・藤屋北遺跡・上部船遺跡を中心にして」
22 大阪府立弥生文化博物館	撮影 写真 貸出 写真原板 掲載 ラー	池上曾根遺跡		弥生土器 2 ヒスイ勾玉 1 (撮影なし)	春季特別展「弥生人誕生－池上曾根と吉野ヶ里－」

23 (株)新人物往来社	貸出 写真原板力 掲載 ラー	写真原板力 藤原北道跡 河内飛鳥寺	木製鞍 1 塔心樋 1	『月刊歴史読本』2006年12月号
24 個人	貸出 写真モノク 掲載 口	写真モノク 河内飛鳥寺	塔心樋 1	「河内御嶽山古墳と河内飛鳥寺」大阪府立近つ飛鳥博物館館記号!!
25 大阪歴史博物館	貸出 写真モノク 掲載 口	写真モノク 田辺廣寺	東塔跡 7	特別展「焼瓦のまちスタイルのまち」
26 個人	掲載 写真	東奈良遺跡 菟田安田遺跡	木偶頭部 1 木偶頭部 1	『日本振り人形史—形態変遷・振法技術史』
27 藤井寺市総務部	掲載 写真	三ツ塚古墳	大小修羅出土状況!	「私のまちのPR」『自治大阪』2006年10月号
28 (財)大阪府文化財センター	掲載 写真	富山 1号墳	須恵器器台!	重要調査に関わるシンポジウム「古墳時代に生きた日本人の軌跡—長瀬道跡・藤原北道跡・上部郡遺跡を中心にして」
29 木蘭学会	掲載 写真	菟原遺跡	木箱 2	「2005年全面出土木蘭大阪・豊後道跡」『木蘭研究』第28号
30 藤井寺市総務部	掲載 写真	三ツ塚古墳	大修羅出土状況!	『市制施行40周年記念誌』
31 個人	掲載 写真	平尾遺跡	先端鋸齿状 1 破・腹帶飾 1	『新聞赤旗』学芸コラム
32 (財)長浜曳山文化協会	掲載 写真	大阪城跡	棟地橋 1	「北近江一里・千代俳葉会」
33 学研文化社	掲載 写真	藤原北道跡	U字形板状土器品 1	『余山江流域古墳土器研究』
34 大阪府立近つ飛鳥博物館	撮影 写真 掲載	藤原北道跡 横良郡朱里道跡	韓式系土器蓋 1・甕 1・平底鉢 1、須恵器はそう(木枕付) 1・高杯 2、土師器二口かど 1・煙突 1・なべ 1、U字形板状土器品 1、鐵製直刃刀 2・刀子 1・釣針 2・森織 2・卜骨 1、木製たたみ 1・刀形 1・えぶり 1・木鍔 1・模型杓子 1・横足 1・柱桿 1・輪鏡 1・棍 1・船形 1・船 2・鐵製圓筒形漆 2・解塙土器 6・解塙土器片一式・筋縫裏 9・石製勾玉(未製品含む) 7・菅玉(未製品含む) 7・臼 5・有孔円板 14・硯石 2・ガラス玉 12(以上藤原北道跡) 須恵器はそ 3・無蓋高杯 1・甕 1・製埴土器 5・土師器蓋 1・木製刺 1・柄 1・指揮棒 1・コモゲタ 1・ツチノコ 1・杵 1・模擬具 1・盤 1・鉢 1	発掘された日本列島2006地域展「河内湖周辺に定着した渡来人—5世紀の渡来人の足跡」
35 大阪府立近つ飛鳥博物館	貸出 写真原板力 掲載 ラー	写真原板力 藤原北道跡 横良郡朱里道跡	U字形板状土器品 1・韓式系土器蓋 1・輪燈 1・須恵器全景 2・輪 1・鏡鏡 1・大溝出土遺物(集合) 1	発掘された日本列島2006地域展「河内湖周辺に定着した渡来人—5世紀の渡来人の足跡」
36 (株)吉川弘文館	貸出 写真原板力 掲載 ラー	深田境遺跡	須恵器把手付壺	『歴史考古学辞典』
37 摂津市教育委員会	貸出 写真原板力 掲載 ラー	千里丘遺跡群	調査区全景 2、第1遺構面積出土状況 3・縄文土器出土状況 6	摂津市内出土遺物展示「摂津市から石器が出土・千里丘駆の縄文文化」
38 個人	掲載 写真	節原北道跡	遺跡航空写真 1・聖穴住居跡出土状況他遺跡写真 4・木製輪轆 1・縄足 1・U字形板状土器品 1	「節原北道跡の発掘調査成果について—古墳時代を中心にして」『まんだら88号』
39 (株)ジャパン通信情報センター	貸出 写真カラー 掲載	奈良北道跡	調査区全景 1・大溝出土状況 1	『文化財発掘出土情報』2007年1月号
40 大阪大谷大学	掲載 写真	新堂夷寺	垂木失瓦 4 (『新堂夷寺发掘調査概要』 II)	「大阪府富田林に所在する新堂夷寺の創建の年代」『志学考古—年代・産地・分析等』
41 藤井寺市教育委員会	掲載 写真	三ツ塚古墳	大修羅出土状況 2	市制40周年記念「巨大古墳の時代をめぐって—修羅と水鳥形埴輪の開闢重要文化財指定記念」

42 (財) 大阪府文化財センター	貸出 写真原板力 掲載 ラー	写真原板力 豊原1号墳	全景 1	震災開始25周年記念「考古学からわかる郷土の歴史池島・椿万寺遺跡と生駒山西麓の文化財」
43 (株) ジャパン通信情報センター	掲載 写真	桑原道跡	遺跡航空写真 1 (文化財保護課ホームページ) 横穴式石室と埴丘 1 (文化財保護課ホームページ)	『文化財発掘出土情報』2007年2月号
44 「こしの都千五百周年プロジェクト実行委員会・越前市教育委員会	貸出 写真原板力 掲載 ラー	御墨北遺跡	馬骨出土状況 1	こしの都千五百周年プロジェクト『総体大王ロマンを語る』
45 個人	貸出 写真	はさみ山遺跡	瑞花文八花鏡 1	学術研究
46 桐木市教育委員会	掲載 写真	桑原道跡	遺跡調査位置図、古墳群分布図ほか 5	「わがまち茨木年代記」『わがまち茨木』14冊
47 寝屋市教育委員会	貸出 掲載 ラーマ	写真原板力 余部道跡	遺跡航空写真 1・遺構写真 1 (『余部道跡』『河内諸物語の活躍を求めて』2001-2)	
48 泉大津市教育委員会	貸出 掲載 ラーマ	写真原板力 七の坪遺跡	遺構面全景 1・水田面足跡 1 (『七の坪遺跡発掘調査概要』Ⅲ)	「おおつ物語継・土の中の歴史」(4)『広報いづみおおつ』2月号
49 滋賀県立安土城考古博物館	貸出 掲載 ノクロ	木の本遺跡	木製鏡・鏡 1・木製笄柄 1・木製脚未品 1・石 彦土出土状況 1、弥生前期遺構面遺量 1	春季特別展「縄文から弥生へ—農耕社会の形成と実年代—」
50 八尾市教育委員会	掲載 国面写真	津堂城古墳	石棺蓋測量 古墳調査状況 1 (『大阪府史蹟名勝天然記念物調査報告』第 5 種)	「心合寺山古墳の被葬者像を考える」『八尾市文化財紀説』12
51 大阪府立弥生文化博物館	撮影 写真 掲載	雁屋道跡 木の本遺跡	鏡劍 4 箭弓 1	春季特別展「稻作とともに伝わった武器」
52 (財) 大阪府文化財センター	撮影 写真 掲載	四ツ池遺跡	儀杖状木製品 1	(財) 大阪府文化財センター テーマ展示シリーズ『ここまでわかった考古学』(出土木器が語る考古学—弥生時代・古墳時代の諸様相—)
53 大阪府立近つ飛鳥博物館	撮影 写真 掲載	衣羅廣寺 田辺廣寺 土師寺跡 河内國分寺 正法寺跡 信太寺跡 龍泉寺 新堂廣寺	軒丸瓦 1 軒平瓦 1 軒丸瓦 1 軒丸瓦 1 軒丸瓦 4 新平瓦 2 直輪破片 1 軒丸瓦 5 新平瓦 2 墓書土器 1 軒丸瓦 4 新平瓦 1 刻印瓦 1 軒丸瓦 1 軒丸瓦 8 新平瓦 3 鎬尾 2 幕面平瓦 1 文字 平瓦 1 軒丸瓦 1 軒丸瓦 5 新平瓦 2 墓書土器 1 軒丸瓦 1	春季特別展「河内古代寺院巡礼」
54 大阪府立近つ飛鳥博物館	貸出 写真原板力 掲載 ラー	新堂廣寺 鳥坂寺跡 お龜石古墳 田辺廣寺 河内國分寺跡	鏡尾 1、兔瓦・文字瓦 1 (掲載のみ) 金鏡製品 7、埴仏 2、三彩火舎 1 平瓦 1 東塔 1・西塔 1 塔跡	春季特別展「河内古代寺院巡礼」
55 八尾土木事務所	貸出 写真原板モ 掲載 ノクロ	大県郡条里遺跡	弥生土器集合 1 須恵器集合 1 瓦器・瓦質土器・土師器集合 1 調査トレンチ全景 1 (『大県郡条里遺跡確認調査報告』2005.3)	広報誌「一級川河川恩智川法善寺多目的造水地事業」
56 大阪歴史学会	掲載 写真	岸和田城跡	岸和田城跡発掘調査風景 4	岸和田市民歴史シンポジウム・VI、大阪歴史学会見学検討会再発見! 岸和田城・城下町の魅力
57 (株) 菅井書店	掲載 写真	河内國分寺跡 応神陵古境外堤	軒瓦 1 丸瓦 1、軒丸瓦 1、平瓦 1、軒平瓦 1	「京外離宮の造営と城制」 『城域とシンボリズム』
58 泉大津市教育委員会	貸出 写真原板力 掲載 ラー	七の坪遺跡	発掘調査地全景 1	「おおつ物語継・土の中の歴史」(5)『広報いづみおおつ』3月号

59 河内長野市教育委員会 摂載 図面	喜志遺跡	弥生土器実測図1（『喜志遺跡・東阪田遺跡発掘 文化財普及啓発本 調査板表』VI）
60 京都大学学術出版会 摂載 写真	苗屋北遺跡	馬骨出土状況1 『古代日本国家形成の考古学』

資料閲覧

申請者(所属)	遺跡、その他	資料内容
1 関西大学・立命館大学・京都大・節屋北遺跡 学大学院		土師器・韓式系土器
2 大阪大学大学院	苗屋北遺跡	土師器・韓式系土器
3 大野城市教育委員会	陶邑窯跡群	須恵器(泉北考古資料館・基準資料)・陶棺
4 大阪大学大学院	苗屋北遺跡	土師器・韓式系土器
5 大阪市立大学・(財)大阪府文 化財センター	馬子塚古墳	斜線二神二獸鏡・管玉
6 大阪府立近つ飛鳥博物館	応神陵古墳・太田茶臼山古 墳・津堂城山古墳	円筒埴輪
7 (財)大阪府文化財センター	諸良都条里遺跡・東奈良遺 跡・鬼井遺跡・田井中遺跡 ほか	木製剣・櫛梳具・盤・持など
8 大阪府立狭山池博物館	西大井遺跡・諸良都条里遺 跡・萱振遺跡ほか	墨書き人面土器・木製船形・木製人形 跡・萱振遺跡ほか
9 同志社大学大学院	喜志遺跡	石器
10 (財)大阪府文化財センター	池上曾根遺跡・野々井遺 跡・四ツ池遺跡・梅尾塚原 古墳	木製品・袋状鉄斧
11 (財)大阪府文化財センター	節屋北遺跡	韓式系土器・須恵器・製塙土器・木製輪錠・曲刀子・U字型板状土製品・鉄鍔など
12 国立歴史民俗博物館	陶邑窯跡群	須恵器(泉北考古資料館・基準資料)
13 和泉市教育委員会	池上曾根遺跡	写真(調査風景)
14 大手前大学史学研究所	萱振遺跡	赤生土器・土師器
15 京都大学大学院	鳳東町4丁遺跡	绳文土器
16 韩国考古環境研究所	節屋北遺跡	韓式系土器・須恵器・製塙土器・木製輪錠・曲刀子・U字型板状土製品・鉄鍔など
17 大阪府立弥生文化博物館	池上曾根遺跡	弥生土器
18 (財)大阪府文化財センター	陶邑窯跡群・堂山1号墳	須恵器
19 京都大学大学院	諸良都条里遺跡	櫛梳具・持など
20 富田林教育委員会	新堂庚寺	墨木先瓦
21 大阪府立門真西高校	雁屋遺跡	手培形土器
22 天理大学	東郷遺跡	特殊基台
23 同志社大学大学院	喜志遺跡・上遺跡・寛弘寺 遺跡	石器
24 同志社大学大学院	寛弘寺遺跡	石器

25	大手前大学史学研究所	成法寺遺跡	土師器
26	富田林教育委員会	新堂磨寺	垂木先瓦
27	京都女子大学	八尾南遺跡・今池遺跡	石器
28	同志社大学大学院	寛弘寺遺跡	石器
29	(財) 大阪府文化財センター	壹振遺跡・崇禪寺遺跡	製塙土器
30	(財) 大阪府文化財センター	河内飛鳥寺	写真(心機)
31	大阪府立近つ飛鳥博物館	御屋北遺跡・長保寺遺跡	韓式系土器・須恵器・製塙土器・U字型板状土製品・鉄鉱など
32	(財) 大阪府文化財センター	八雲遺跡	弥生土器
33	奈良大学	御屋北遺跡	土師器
34	奈良大学	御屋北遺跡	土師器
35	大阪大学大学院	安威遺跡	土師器・須恵器
36	總持寺	總持寺遺跡	軒丸瓦
37	大阪大学大学院	安威遺跡	土師器・須恵器・韓式系土器
38	韓國国立中央博物館	陶邑古窯跡群	須恵器(泉北考古資料館・基準資料)
39	高石市教育委員会・(財) 京都市埋蔵文化財研究所・神戸市埋蔵文化財センターほか	陶邑古窯跡群	須恵器(泉北考古資料館・基準資料)
40	(財) 大阪府文化財センター	大和川今池遺跡	遺構図
41	熊本大学	弁天山D2号墳・壹振1号 墳・土師ノ里遺跡・總持寺 23号墳・總持寺29号墳など	家形埴輪・盾形埴輪・蓋形埴輪など
42	大手前大学・奈良大学	陶邑古窯跡群	須恵器(泉北考古資料館・基準資料)
43	香川県埋蔵文化財センター	陶邑古窯跡群	須恵器(泉北考古資料館・基準資料)
44	滋賀大学	西上山古墳	埴輪
45	(財) 大阪府文化財センター	東郷遺跡	軒丸瓦
46	(財) 滋賀県文化財保護協会	宇度墓古墳・西小山古墳・ 西陵古墳	円筒埴輪
47	(財) 大阪府文化財センター	古室遺跡・木の本遺跡	斧柄・容器・飾弓・鏡など
48	堺市教育委員会	僧太寺跡・池田寺跡・新堂 磨寺	文字瓦
49	泉南市教育委員会	海金寺・男里遺跡	瓦・弥生土器
50	柏原市教育委員会・交野市教育 委員会	御屋北遺跡	銀治開運資料
51	大阪府立弥生文化博物館	雁屋遺跡	銅燃
52	大阪府立弥生文化博物館	木の本遺跡・田井中遺跡・ 志紀遺跡	弓・劍形木製品
53	堺市教育委員会	僧太寺跡	文字瓦
54	堺市教育委員会	鳥坂寺跡	文字瓦
55	大阪府立近つ飛鳥博物館	鳥坂寺跡	軒丸瓦・軒平瓦鶴尾・文字瓦

56 滋賀県立安土城考古博物館	木の本遺跡	縄文土器・弥生土器・鏡・斧柄・石磨丁・多頭石斧・独鉢石
57 (財) 大阪府文化財センター	四ツ池遺跡・木の本遺跡・ 讚良都条里遺跡・東奈良遺 跡・葛屋北遺跡・古室遺跡	木製品
58 京都大学	風東町4丁遺跡	縄文土器
59 京都大学	風東町4丁遺跡	縄文土器
60 堺市教育委員会	ガラス乾板写真資料	兌鐘関係
61 奈良県立橿原考古学研究所	都屋北遺跡	韓式系土器・須恵器・製塙土器・木製輪鋸・曲刀子・U字型板状土製品・鉄津など
62 桃木県立博物館・浙江省博物館	陶邑窯跡群	須恵器(泉北考古資料館・基準資料)
63 個人	陶邑窯跡群	須恵器(泉北考古資料館・基準資料)
64 大阪府立近つ飛鳥博物館	燕屋北遺跡	ウマ全身骨格出土土壞造構図・土壞樹脂製型
65 (財) 大阪府文化財センター	淡峰遺跡	縄文土器
66 大阪府立近つ飛鳥博物館	河内国分寺跡・龍泉寺・池 田寺・衣錦丘寺・烏坂寺 跡・新堂廐寺・正法寺跡・ 僧大寺跡・土師寺跡・田辺 廐寺・ほか	軒丸瓦・軒平瓦・鰐尾・鬼瓦・土師器・須恵器・宝輪・水煙
67 窪屋川市教育委員会	都屋北遺跡	U字型板状土製品
68 和泉市教育委員会	般吉寺遺跡	須恵器
69 高麗大学校考古環境研究所	都屋北遺跡・讚良都条里遺 跡	韓式系土器・須恵器・土師器・製塙土器・木製輪鋸・曲刀子・U字型板状土製品・鉄津など
70 朝日カルチャー	陶邑窯跡群	須恵器(泉北考古資料館・基準資料)
71 高麗大学校考古環境研究所	陶邑窯跡群	須恵器(泉北考古資料館・基準資料)
72 出土木器研究会	都屋北遺跡・木の本遺跡・ 田井中遺跡・讚良都条里遺 跡ほか	木製品
73 国立扶桑文化財研究所	都屋北遺跡・讚良都条里遺 跡	ガラス玉鏡型・ガラス玉
74 京都橘大学	陶邑窯跡群	須恵器(泉北考古資料館・基準資料)
75 大野城市教育委員会	陶邑窯跡群	須恵器・陶棺
76 (財) 中原文化財研究院	都屋北遺跡	韓式系土器・須恵器・土師器・など
77 福岡大学	土師の里遺跡・古室山古 墳・美園古墳・堂山1号墳 など	埴輪
78 (財) 中原文化財研究院	陶邑窯跡群	須恵器(泉北考古資料館・基準資料)
79 大阪府立近つ飛鳥博物館	都屋北遺跡	ウマ上顎骨
80 指津市教育委員会	千里丘遺跡群	陶磁器・瓦器・須恵器・土師器・石器接合資料

— 平成18年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図 —

課長 保管理グループ

参考

指定文化財グループ

【文化財保護課】

TEL 06 (6941) 0351 (代表)

調査管理グループ 資料収集 主査 横木高明 センター指導・調整、事業監査等

分室長 主査 宮野淳一 主査 大崎吉久雄 稽察及び竣工等

玉井 功 主査 二宅正治 遺物整理、東北考古資料館協力等
技師 藤田道子 写真・保存処理、資料貸出等

調査第一グループ 調査第一組合 主査 一瀬和大 発掘調査・調整・指導(豊能・三島)

調査第一補佐 主査 岩崎二郎 主査 辻本 武 発掘調査・調整・指導(中・北河内)

瀬川 健 技師 岩瀬 達 発掘調査

技師 井西貴子 発掘調査

技師 网田 賢 発掘調査

技師 小川裕見子 発掘調査

調査第二グループ 調査第二組合 主査 藤澤真依 発掘調査・調整・指導(東州)

調査第二補佐 主査 西口陽一 主査 小山田泰一 発掘調査・調整・指導(南河内)

高島 徹 技師 栗本 哲 発掘調査

技師 上林史郎 発掘調査

技師 阿部幸一 発掘調査

技師 地村邦大 発掘調査

技師 杉本清美 発掘調査

技師 因 真一 発掘調査

【文化財調査事務所】

TEL 072 (291) 7401

大阪府教育委員会文化財調査事務所年報11

発行日 2007年11月30日

発 行 大阪府教育委員会

〒540-8571

大阪市中央区大手前2丁目

☎06-6941-0351

編 集 大阪府教育委員会文化財調査事務所

〒590-0105

堺市南区竹城台3丁21-4

☎072-291-7401

印 刷 株式会社 近畿印刷センター

柏原市本郷5丁目6番25号

☎072-972-5918

